

石井方式 漢字の覚え方

熟語編

個々の漢字をよく知ったうえで、熟語としての用法を理解することがたいせつである。ここには、特に難解なもの、誤解しやすいもの、試験によく出題されるものを選んだ。

石井方式 漢字の覚え方

- 愛染（アイゼン） 愛に染まる意。梵語で煩惱のこと。ボンゴ ボンノウ
- 隘路（アイロ） 狹くけわしい道。障害・難関の意味に使う。
- 悪行（アクギョウ） 悪い行ない。
- 悪業（アクゴウ） 悪い報いを招くような行ない。
- 悪食（アクジキ） いからもの食いという使い方と粗食という使い方とがある。
- 握力（アクリヨク） 物を握りしめる力。
- 浅茅（あさぢ） たけの低いちがや。
- 阿修羅（アシュラ） 戦いを好む神。梵語。
- 網代（あじろ） 竹や木を編んで作る。魚を取るために水中にしかけるもの。

石井方式 漢字の覚え方

初△ 淹×

产

（インメツ）あとかたなくなくしてしまうこと。

例 衣鉢をつぐ

衣 夷 × 一

鉢

(イテキ) 未開の民、野蛮人。外国人を

うで。

—

鄭 (イツテキ) 一度いっぺん出でます。

100

— 逸 △

(イチル) 一本の細い糸。今にも切れそうな有様を言つ。 例 一縷の望み (あぶな
(イチモジ) すぐれたもの。すぐれた人物やすぐれた馬を言つのに使う

△

委

25

(イシヨウ) 着物のこと。衣が上衣、裳が下衣。裳が常用漢字にないため、
が使われる。

1

七

(アンノン) 穏やかなこと。穏はオンだが安 (an) の *n* がついてノン (non)。 (アンバイ) 料理の味加減。転じてよく “ほどあい” の意味で使う。

行

△ 輪（アツレキ）車を引きしきしすることから、仲の悪いことを言つ

×

（アッセン）両方がうまくいくように間にはいつてとりもつこと。**周旋**（シュウゼン）

朝臣（あそん）公卿の姓名にそえる敬称。あさおみ→あそみ→あそん、となる。

請負（うけおい）仕事を全責任をもつて仕上げることに対し、一定の報酬を支払うといふ契約。例 請負工事

鳥合（ウゴウ）鳥の集合が雁のように統一も規律もないことから、統一も規律もないことを言つ。例 鳥合の衆

胡散（ウサン）スジョウ素姓が疑わしいこと。胡は唐音。例 胡散臭い（なんとなくあやしい）

有情（ウジョウ）①情（愛情の心）のあること。②木石などの非情の物に対し、人間や動物のこと。①は無情、②は非情に対し言つ。

有頂天（ウチヨウテン）仏教で言う九天の最上位。うまくいった喜びで夢中になる場合に使う。例 有頂天になる

有無（ウム）あるのとないのと。例 有無相通ずる・有無を言わせず

胡乱（ウロン）胡散と同じ意。乱は唐音。ロン

温氣（ウンキ）暖かいこと、また蒸し暑いことを言つ。

蘊蓄（ウンチク）蘊は草を積む、蓄は草をたくわえるのが本義。じゅうぶんに研究して深くたくわえた知識を言つ。例 蘊蓄を傾ける

蘊奥（ウンノウ）学問や芸術の極意（奥深いところ）。例 蘊奥をきわめる

英邁（エイマイ）邁は進。才知が衆に抜き出ですぐれていること。

回向（エコウ）自分の修めた功德を他に回し向かわす意から、読経などして死者の冥福を祈ることを言つ。

会釈（エシヤク）軽く一礼すること。

壞疽（エソ）人体中的一部の組織が破壊されて死んだ状態になる病気。例 壊疽

縁起（エンギ）①物事の起り、由来。②吉凶の前兆。例 縁起が悪い・縁起をかつぐ

世（エンセイ）厭はきらう。この世をいやなものに思うこと。

横溢（オウイツ）溢はあるふれる。横はかつて気ままの意。水がいっぱいにあふれるから元気のひどく盛んなことを言つ。

押韻（オウイン）韻をふむこと。詩の初め、または終わりに、同じひびきの音を置くこと。

謳歌（オウカ）謳は声をそろえて歌うこと。ほめたたえることに使う。例 青春を謳歌する

奥義（オウギ）学問・技芸などの最も大事なところ。

押収（オウショウ）差し押え取り上げる。

嗚咽（オエツ）むせび泣くこと。

悪寒（オカン）発熱のために起くる寒け。

汚穢（オワイ）①きたない物。②大小便。
 音叉（オンサ）音の共鳴の実験に用いる道具の名前。
 音頭（オンド）人の先に立って、あとに続かせること。転じて、大勢で歌いながら踊る踊りを言う。

便（オンビン）物事をおだやかに扱うこと。

魁偉（カイイ）体格や顔が人並みはずれて大きくたくましいこと。例 容貌魁偉

開豁（カイカツ）①度量が広いこと。②目の前が開けてながめのよいこと。
 眼（カイゲン）仏道の真理をさること。

鑿（カイサク）山野を切り開くこと。道や運河を通すことに用いる。

炙（カイシャ）広く知れ渡つてることに使う。例 人口に膾炙される（膾はなます、炙は焼肉、ともに人の口によくのぼる）

凱旋（ガイセン） 戦いに勝って帰ること。
開闢（カイビヤク） 天地の開け始め。

解剖（カイボウ） 生物のからだを切り開くこと。転じて、物事の構造・作用などを細かく分解・分析して研究することを言う。

乖離（カイライ） あやつり人形。転じて、人の手先となつて使われる者を言う。
乖離（カイリ） 乖はそむく。そむき離れる。

傀儡（カイワライ） あたり近所。 例 銀座界隈

矍鑠（カクシャク） 年をとつても元気の良いことを言う。

例 瞽鑠たる老人

角逐（カクチク） おたがいに競争すること。角は競うこと（角力の角）。逐は追う。

渴仰（カツゴウ） ①深く信仰すること。②深く慕うこと。渴はのどがかわくこと。のど

がかわいた人が水を求めるように信仰することを言う。

堪 忍 (カシニン) たえしのぶこと。他人の過失を許すことに用いる。
感 応 (カシノウ) 心が物に感じて応ぜること。

完 壁 (カンペキ) 壁は^{ヘキ}玉玉。少しのきずもない玉の意から、欠点の全くない意味に用い
る。壁を壁と書かぬように注意。

勸 誘 (カンユウ) すすめ、さそつこと。

甘 藍 (カンラン) キヤベツ。

帰 依 (キエ) すぐれたものを頼みとしてその力にすがること。仏教用語。

義 捐 (ギエン) 捐は捨てる。慈善や公益のために私財を投すること。今は“義援”でこ
れを表わしている。

企 画 (キカク) 計画を立てること。

揮 毫 (キゴウ) 筆をふるつこと。つまり、絵や字を書くこと。

石井方式 漢字の覚え方

- 希 代 (キタイ) 希はまれ (稀)。世 (＝代) にまれなこと。不思議なこと。
- 吉 左 右 (キッソウ) 善悪・成否いづれかの知らせ。“よいたより”の意味に使うことが多
い。
- 氣 風 (キップ) 気前。氣風のなまり。
- 企 図 (キト) 計画。企て。
- 祈 祷 (キトウ) 神仏に祈ること。
- 危 篤 (キトク) 病気が重くて、今にも死にそうな状態。
- 忌 日 (キニチ) 命日。死んだ日付の日。供養をする日という意味。
- 華 △ 奢 (キャシャ) 上品で美しいが弱々しいことを言つ。
- 杞 憂 (キュウ) 杞 (国名) の人が天が落ちてきはしないかと心配した故事による。心配
しないでよいことを心配すること。

石井方式 漢字の覚え方

公△	琴瑟(キンシツ) ^{キン} 琴の「こと」と大「こと」。琴は五弦、のちに七弦となる。瑟は十五弦から二十七弦まである。	鳴覚(キュウカク) においに対する感覚。
達△	公達(きんダチ) 貴公子。	廄舍(キュウシャ) 家畜小屋。
救恤(キュウジユツ) 恤はあわれむ。貧乏人や被災者を救い惠むこと。	救恤(キュウジユツ) 恤はあわれむ。貧乏人や被災者を救い惠むこと。	救恤(キュウジユツ) 恤はあわれむ。貧乏人や被災者を救い惠むこと。
翕然(キュウゼン) 多くのものが集まって一つになること。	翕然(キュウゼン) 多くのものが集まって一つになること。	翕然(キュウゼン) 多くのものが集まって一つになること。
糾明(キュウメイ) 悪事などを問い合わせ正し、罪状を明らかにすること。	糾明(キュウメイ) 悪事などを問い合わせ正し、罪状を明らかにすること。	糾明(キュウメイ) 悪事などを問い合わせ正し、罪状を明らかにすること。
凝塊(ギョウカイ) 凝は凍つて固まること。こり固まつたかたまり。	凝塊(ギョウカイ) 凝は凍つて固まること。こり固まつたかたまり。	凝塊(ギョウカイ) 凝は凍つて固まること。こり固まつたかたまり。
行刑(ギョウケイ) 刑を執行すること。	行刑(ギョウケイ) 刑を執行すること。	行刑(ギョウケイ) 刑を執行すること。
嚮後(キョウコウ) 今後。これから先。	嚮後(キョウコウ) 今後。これから先。	嚮後(キョウコウ) 今後。これから先。
校合(キョウゴウ) 写本・印刷物で、本文の違いをほかの本や原稿と比べ確かめること。	校合(キョウゴウ) 写本・印刷物で、本文の違いをほかの本や原稿と比べ確かめること。	校合(キョウゴウ) 写本・印刷物で、本文の違いをほかの本や原稿と比べ確かめること。
矜恃(キョウジ) 自分の能力を信じて、いだく誇り。	矜恃(キョウジ) 自分の能力を信じて、いだく誇り。	矜恃(キョウジ) 自分の能力を信じて、いだく誇り。
行者(ギョウジヤ) 仏道を修行する人。	行者(ギョウジヤ) 仏道を修行する人。	行者(ギョウジヤ) 仏道を修行する人。
狂奔(キョウホン) 狂人のように走り回るという意味で、ある事に熱中して仕事をする	狂奔(キョウホン) 狂人のように走り回るという意味で、ある事に熱中して仕事をする	狂奔(キョウホン) 狂人のように走り回るという意味で、ある事に熱中して仕事をする
杏林(キョウリン) 中国の名医董奉 ^{トウボウ} が治療費の代わりに杏 ^{あんず} を植えさせたら数年で林になつたという故事から、医者のことを言つ。	杏林(キョウリン) 中国の名医董奉 ^{トウボウ} が治療費の代わりに杏 ^{あんず} を植えさせたら数年で林になつたという故事から、医者のことを言つ。	杏林(キョウリン) 中国の名医董奉 ^{トウボウ} が治療費の代わりに杏 ^{あんず} を植えさせたら数年で林になつたという故事から、医者のことを言つ。
拳措(キヨソ) 拳は手を上げる、措は手をおく。立ち居るまい。動作の意味に使う。	拳措(キヨソ) 拳は手を上げる、措は手をおく。立ち居るまい。動作の意味に使う。	拳措(キヨソ) 拳は手を上げる、措は手をおく。立ち居るまい。動作の意味に使う。
許諾(キヨダク) 相手の頼みを聞き入れること。	許諾(キヨダク) 相手の頼みを聞き入れること。	許諾(キヨダク) 相手の頼みを聞き入れること。
巨擘(キヨハク) 親指のこと。転じて人よりすぐれた人の意味に使う。	巨擘(キヨハク) 親指のこと。転じて人よりすぐれた人の意味に使う。	巨擘(キヨハク) 親指のこと。転じて人よりすぐれた人の意味に使う。
羁旅(キリョ) 旅。または旅人の意にも使う。	羁旅(キリョ) 旅。または旅人の意にも使う。	羁旅(キリョ) 旅。または旅人の意にも使う。

均霑^{キンテン} 霽はうるおう。平等に利益を得ること。

久遠^{クオン} 永遠。また、遠い昔のこと。

公家^{クゲ} 朝廷。また、朝廷に仕える者。

口伝^{クデン} 秘伝などを口で伝えること。

句読^{クトウ} 文章の区切り。句点と読点^{トウ}。

求道^{グドウ} 仏の正しい道を求めること。

功德^{クドク} ①神仏からよい報いを与えるような良い行ない。②神仏の恵み。

公方^{クボウ} ①公事。②朝廷。③幕府。

供物^{クモツ} 神仏に供える物。

供養^{クヨウ} 死者の靈に供え物をして、その冥福^{メイフク}を祈ること。

紅蓮^{グレン} まっかなはすの花。転じて、猛火のほのおの色のたとえに用いる。

轟^{ケイガ} 咳^{ケイガ} せきばらい。例 某氏の轟咳に接する（親しく会つゝとを言つ）

慧眼^{ケイガ} 物事の本質や裏面を見抜くすぐれた眼力。

眼^{ケイガ} 眼^{ケイガ} まぶた。光る目。慧眼の意味にも使う。

荊棘^{ケイキヨク} いばら。転じて、困難の意に用いる。

景仰^{ケイコウ} 德を慕い仰ぐこと。

契合^{ケイゴウ} 割符を合わせたように、二つの物がぴったりと合つうこと。

形而下^ク^ハ (ケイジカ) ①形を備えているもの。②感性的経験で知りうるもの。

形而上^ク^ハ (ケイジジョウ) ①形を備えていないもの。②感性的経験では知りえない、有形の

現象の世界の奥にある究極的なもの。

逆[△] 傾城[△] (ケイセイ) 城を傾けるような美女。転じて、遊女の意味にも用いられる。

旅[△] (ゲキリョ) 逆は迎える。旅人を迎える所の意で、『旅館』。

石井方式 漢字の覚え方

下 向 (ゲコウ) 低いほうへ下ること。都から地方へ行くことを言つ。	懈 × 怠 (ゲタイ) なまけること。
解脱 (ゲダツ) 俗世間の束縛・迷い・苦しみから抜け出して、悟りを開くこと。	下 知 (ゲヂ) さしづすること。
結 縁 (ゲチエン) 仏道の因縁を結ぶこと。仏道に帰依すること。	激 昂 (ゲツコウ) 激しく怒つて興奮すること。
結 繩 (ケツジョウ) 文字のなかつた時代、なわの結び方で記録の代用をしたこと。	結 紮 (ケツサツ) 血管をしばって、血行を止めること。
懸 念 (ケネン) 気がかり。心配。	仮 病 (ケビヨウ) 病気のふりをして、人をだますこと。
嫌 惡 (ケンオ) 憎みきらうこと。	例 仮病を使う
繭 (ケンシ) 蘿と糸。また繭の糸。	顕 正 (ケンショウ) 正しい仏理を明らかに示すこと。
顕 彰 (ケンショウ) 隠れている良い事を世に表わし、また表彰すること。	還 俗 (ゲンゾク) 憎が僧籍を離れて、俗人に帰ること。
喧 擾 (ケンジョウ) さわがしいこと。	言 質 (ゲンチ) あとで証拠となることば。例 言質を取る “ゲンシチ” “ゲンシツ”
は誤り。	

本語彙（誤って俗に「単語」の意味に使われているので注意）

好 △
（コウオ）悪はにくむこと。好き嫌い。

悪 △
（コウガイ）小説などの大要を短くまとめたもの。あらすじ。

狡 △
猾（コウカツ）悪がしこいこと。ずるい。

肯 △
繁（コウケイ）物事の急所。

口腔 △
（コウコウ）口からのどまでの間の中の空間。例 口腔衛生（医学では「コウ

ウクウ」と読む

膏 △
肓（コウコウ）内臓の奥深い所。「病膏肓に入る」は容易に直らない重病になつたことを言つことば。また、物事に夢中になつてゐる者をひやかして言うときに用いる。「コウモウ（盲）」と誤りやすい。

較 △
差（コウサ）最高と最低との差。「ガクサ」は慣用読み。

鋼索（コウサク）鋼（はがね）の針金をより合わせて作ったなわ。ワイヤロープ。

強奪（ゴウダツ）暴力で無理やりに奪い取ること。

拘泥（コウディ）こだわること。

更迭（コウテツ）その役目の人気が変わること。また、人を変えること。

後図（コウト）あとあとのための計画。

搅拌（コウハン）かきまわすこと。多く「ガクハン」と読まれている。

毫末（ゴウマツ）毛の末端。わずかなことを言う。

例 毫末の疑いもない

劫掠（コウリヤク）おどしかすめること。

五蘊（ゴクウン）人間を成り立たせている五つの要素。色・受・想・行・識を言う。

虚空（コクウ）何もない空間。大空。

石井方式 漢字の覚え方

極 [×] 月 (ゴクゲツ) 陰暦十二月の呼び名。

呱 [×] 呴 (ココ) 赤子の “おぎやあ” という泣き声。生まれることを 「呱々の声を上げる」と言つ。

居 [△] 士 (コジ) 僧にならず、家にいて仏弟子として修業する男子のこと。

固執 (コシュウ) 自分の意見をどこまでも主張し続けること。 “コシツ” とも読む。

鼓吹 (コスイ) 意見などを盛んに主張して、相手に吹き込むこと。

克己 (コツキ) 自己に克 (勝) つという意味で、欲望や邪念を抑えること。

誤謬 (コビュウ) 謬も誤り。

小兵 [△] (コヒョウ) からだの小さいこと。

勤行 (コングヨウ) 仏前に読経や回向をすること。

権化 (コンゲ) 権は仮。神仏がこの世の人々を救うため、仮の姿で現われること。また

その化身。

今生 (コンジョウ) この世。また、この世に生きている間。

紺青 (コンジョウ) あざやかな明るい藍色。

言上 (コンジョウ) 田上の人に向かって言つこと。申し上げること。

渾身 (コンシン) 渾はおしなべる。からだ全体のこと。『満身』とも書つ。

混沌 (コントン) 物事が入り混じつて見分けのつかない有様を言つ。建立 (コンリュウ) 寺院などを立てること。

彩色 (サイシキ) 色をつけること。色どり。

賽錢 (サイセン) サンケイ 神仏に参詣して上げる金。もとは、祈願成就のお礼に上げた金。

債務 (サイム) 金を払つたり、物を渡したりすべき法律上の義務。

錯誤 (サクゴ) ①誤り。②事実と観念と一致しないこと。

例 時代錯誤

石井方式 漢字の覚え方

石井方式 漢字の覚え方

桟○	残	参	散	鑽	参	茶	殺	蹠	雑	撒	布	布	急	颯	早	削
道	滓	詣	華	仰	画	飯事	戮	跌	駁	×	△	△	△	△	△	△
（サンドウ）	（ザンシ）	（サンケイ）	（サンゲ）	（サンギョウ）	（サンカク）	（サンギンジ）	（サツリク）	（サテツ）	（ザツパク）	×	×	△	（サツキュウ）	（サツソウ）	△	△
山の崖の中腹に、 棚のように設けられた橋。また、絶壁から絶壁へ たな	残りかす。	神仏におまいりすること。	自分の行為の悪かったことに気づいてそれを悔い、神仏に告白すること。	聖人・偉人の学徳を仰ぎ尊ぶこと。誤って“讚仰”と書くことが多い。	計画の相談に参加すること。	日常のありふれたこと。だれでも、いつでもしていることだから。	むごたらしく殺すこと。	つまずくこと。	知識・思想が雑然としていて、統一がないこと。	まき散らすこと。	（サンプ）と慣用読みされている。	至急。	人の姿や態度がさわやかで勇ましい様子を言う。	すぐさま。	（サクショ）文章などのある部分を削り取ること。	
（サンドウ）	（ザンシ）	（サンケイ）	（サンゲ）	（サンギョウ）	（サンカク）	（サンギンジ）	（サツリク）	（サテツ）	（ザツパク）	×	△	△	△	△	△	
桟橋	残滓	参詣	散華	鑽仰	参画	茶飯事	殺戮	蹠趺	雑駁	撒布	布布	急急	颯爽	早速	削除	
（サンドウ）	（ザンシ）	（サンケイ）	（サンゲ）	（サンギョウ）	（サンカク）	（サンギンジ）	（サツリク）	（サテツ）	（ザツパク）	（サンプ）	（サンプ）	（サツキュウ）	（サツソウ）	（サツソウ）	（サクショ）	
（サンドウ）	（ザンシ）	（サンケイ）	（サンゲ）	（サンギョウ）	（サンカク）	（サンギンジ）	（サツリク）	（サテツ）	（ザツパク）	（サンプ）	（サンプ）	（サツキュウ）	（サツソウ）	（サツソウ）	（サクショ）	

例 総評傘

傘 下（サンカ） 中心的な人物や勢力の支配や指導を受ける立場にあること。

下の労働組合

参画（サンカク） 計画の相談に参加すること。

鑽仰（サンギョウ） 聖人・偉人の学徳を仰ぎ尊ぶこと。誤って“讚仰”と書くことが多い。

い。

散華（サンゲ） ①仏を供養して花をまき散らすこと。 ②花と散るの意で、戦死を美化して用いられた。

して用いられた。

かけ渡した橋の道。

参籠^{サンロウ} (サンロウ) 神社・仏寺に、ある期間こもって祈願すること。

思惟^{シイ} (シイ) 考えること。思考。

詩歌^{シイカ} (シイカ) ①漢詩と和歌。②詩や歌。

紫衣^{シエ} (シエ) 紫色の僧衣。

潮騒^{しおさい} (しおさい) 潮が満ちて来るときの響き。

弛緩^{シカソ} (シカソ) ゆるむこと。"チカソ"は慣用読み。

直筆^{ジキヒツ} (ジキヒツ) 代筆でなく、自分自身で書くこと。また、そうして書かれたもの。

嗜好^{シコウ} (シコウ) 嗜はたしなむ (飲食物を口にする)こと。"好み"という意味。栄養と
いうより好きで口にする物を "嗜好品" という。酒・タバコ・コーヒー・
茶などのたぐい。

示唆^{シソウ} (シソウ) それとなく教えること。また、そそのかす意にも用いる(唆はそそのかす)。

"ジサ"とも読む。

使嗾^{シソウ} (シソウ) 嘘はそそのかす。さしづしてそそのかすこと。けしかける。

四諦^{シタイ} (シタイ) 四つの真理という意味の仏教のことば。迷いと悟りとの因果を四つに分けて説明したもの。

悉皆^{シツカイ} (シツカイ) 残らず。皆。悉はことごとく。

例 悉皆調査

湿氣^{シッケ} (シッケ) しめりけ。"シッキ"とも読む。

桎梏^{シツコク} (シツコク) 手かせ・足かせ。自由を束縛するものを言う。

懇親^{ジツコン} (ジツコン) 親しくつきあう間がら。懇意。

妬^{シツト} (シツト) やきもち。

櫛^{シラフ} (シラフ) 櫛の歯のようにぎっしり並んでいること。
櫛^{シラフ} (シラフ) 櫛の歯のようにぎっしり並んでいること。

諮問（シモン）意見を尋ね求めること。

折△伏（シャクブク）衆生を教化することの一方。悪人・惡法を威力をもってくじいて仏法に従わせること。

寂滅（ジャクメツ）煩惱の境地を離れること。転じて、死ぬことに使われる。

娑婆（ツヤバ）シャカ釈迦が教化する世界。転じて、人間の住む世界。俗世間。

執着（シュウジャク）強く心をひかれ、深く思い込んでどうしても忘れることができないこと。

充塞（ジュウソク）満ちていっぱいになること。いっぱいに詰めること。

醜態（シユウタイ）みつともない態度。

羞恥（シユウチ）恥じらい。

充填（ジュウテン）すき間なく物をつめること。

執念（シユウネン）執着の心。転じて、どこまでもやり抜く気持ちをも言つ。

収斂（シユウレン）斂も収と同じ意。収め取ること。また縮むこと。また縮めること。

例 収斂剤

収賄（シユウワイ）賄賂を受け取ること。

修行（シユギョウ）仏法を守って善行を積むこと。転じて、みが技術を磨き練ることを言つ。

肅肅（シユクシユク）静かな様子。また、つっしむ様子。

衆生（シユジョウ）生命のあるすべての物。

入水（ジュスイ）水中に身投げして自殺すること。

出帆（シユツパン）船が港を出ること。ほ帆を上げて舟出することから起つたことば。

出藍（シユツラン）「青は藍より出でて藍よりも青し」という荀子のことばから生まれあいたことば。ジョンシ弟子が先生よりもすぐれていることのたとえに用いられる。

撞 \times 木 (シユモク) 鐘を打ち鳴らすための棒。

呪 \times 文 (ジエモン) まじない。またはのろいの文句。

須 \times 呪 (シユニ) わざかの間。しばらくの間。

腫 \times 瘡 (シユヨウ) はれもの。

修羅の巷 (シユラのちまた) 戰場のことを言う。修羅はインドの鬼神阿修羅の略。

潤滑 (ジエンカツ) 湿つていて、なめらかなこと。摩擦を防ぐための機械油を潤滑油といふ。

いう。

遵守 (ジュンシユ) 教えやきまりによく従い守ること。遵守は順の意。

頌歌 (ショウカ) 神の栄光、君主の徳、英雄の功績などをほめたたえる歌。頌は顔容が

本義で、ほめたたえる意。

正覚 (ショウガク) 最上の知恵。最高の悟り。

石井方式 漢字の覚え方

上 \triangle 定席 (ジョウセキ) ①決まった座席・場所 ②常設の寄席。

饒舌 (ジウゼツ) 饒は食物があり余ること。よくしゃべること。おしゃべり。

装束 (ショウヅク) 身じたぐをすること。また、着物。

人 (ショウニン) 高僧。また僧侶の位。

蕭蕭 (シユウシユウ) 物寂しく風が吹く様。また雨が降る様。

フニイキ

蕭蕭 (シユクシユク) 々とまちがえやすい。

い。

正絹 (ショウケン) 本絹。ほかの纖維の混じらない絹だけの布。

上梓 (ジョウシ) 図書を出版すること。昔は梓 (あずさ) を版木として、これで印刷した。

成就 (ジョウジュ) 成しとげること。

情緒 (ジョウシヨ) 喜怒哀楽などの心の動きを誘い起こすような気分・雰囲気。

ジョウ

ウチョ』は慣用読み。

相伴（ショウバン）伴はつれ。①つれて歩くこと。②客の相手となつていっしょに接待を受けること。

成仏（ジョウブツ）①悟りを開くこと。②死んで仏になること。③死ぬこと。

招聘（ショウヘイ）ティショウ丁重な態度で人を招くこと。今は、“招待”を使うことが多い。

定法（ジョウホウ）決まつたおきて。いつもそつするに決まつてゐる方法。

消耗（ショウモウ）使って減ること。また、減らすこと。もとは“ショウコウ”だが、今はこれが慣用されている。

△ 徒容（ショウヨウ）落ち着いた様子。例 徒容として死にすべく

擾乱（ジョウラン）擾はみだす意。入り乱れること。また騒ぐこと。

渉獵（ショウリョウ）渉は川を歩いて渡ること。獵のために川を渡つてあちこちと探し回ること。広く書物を読みあさることに用いる。

△ 徒容（ショウヨウ）落ち着いた様子。例 徒容として死にすべく

所轄（ショカツ）管轄する範囲。また、管轄と同じようにも使う。

贖罪（ショクザイ）罪をあがなうこと。キリスト教で、キリストがその死により全人類を神に対する罪の状態からあがなつた行為を言う。

殖産（ショクサン）殖はふやす意。生産物をふやすこと。また、産業を盛んにすること。

財産をふやすこと。

辱知（ショクチ）知をかたじけなくするの意で、自分がその人と知り合いであることのへり下つた言い方。

嘱望（ショクボウ）将来に望みをかけること。

△ 属目（ショクモク）①気をつけて見ること。②目に触れること。属は触の意。

書契（ショケイ）文字で書かれたもの、また文字。契は刀で刻む意。最古の漢字は、亀甲・獸骨に刻まれたもので、これを“契文”また“甲骨文字”と言つ。

緒言（ショゲン）前書き。緒は糸口。物事の初めの意。"ショゲン"は慣用読み。
 所作（ショサ）作は行ない。行なう所、つまり、しわざ。ふるまい。身のこなし。
 書肆（ショシ）肆は施、物を並べる意で、店、書店、本屋。
 食客（ショッカク）一家に客の待遇で養われている人。俗に"居候（いそうらう）"。
 所望（ショモウ）望む所、望みとするもの。

緒論（ショロン）本論にはいる準備のための説明をした部分。序論ともいう。"ショロ

ン"は慣用読み。

白拍子（しらビョウシ）平安朝末期の歌舞の一種。また、それを舞う遊女。
 而立（ジリツ）三十歳のこと。論語に、「三十にして立つ」とあることから。
 燐烈（シレツ）熾も烈も、火勢の激しく盛ること。勢いの激しいことに用いる。
 塵埃（ジンアイ）ちり、ほこり。

眞恵（シンイ）眞も恵も"いかり"。"シンニ"とも読む。
 深奥（シンオウ）奥深いこと。似たことばに"深遠"がある。
 真紅（シンク）まっかな色。深紅とも書く。

身口意（シンクイ）からだと口と心。日常生活のこと。

箴言（シンゲン）教訓の意を持つ短いことば。

参差（シンシ）長短不そろいな様。

真摯（シンシ）まじめ一方。摯は"手に執る"が本義。"眞実"の意に仮借される。
 斟酌（シンシャク）斟はひしゃく。"酒をくみかわす"が本義で、"ほどよくする"手
 心を加える"意味に用いられる。

進捗（シンチョク）物事がはかどること。
 例 進捗状況（捗は正しくは、漢音がホ。陟^{ショク}

に慣用読みされた。陟は、丘（丘）に歩いてのぼる意で、はかどる意

がある)

滲 [×] 透 (シントウ) 滲はしみ込む。透は通り抜ける。滲透はしみ通ること。滲が当用漢字

にないため “浸透” が代用される。

真 如 (シンニョ) 宇宙万有の実体。現実かつ永久不变の真理。

審 判 (シンパン) 事件を審理し判断する意味のことば。第三者的立場で判決を下す。 “ジ

ンパン” とも言つ。

進 物 (シンモツ) 人にさし上げる物。贈り物。

辛 辣 (シンラツ) 味のからいことから、非常に手きびしい意味に使う。例 辛辣な批評

推 敲 (スイコウ) 詩や文章を良くしようとして苦心すること。唐の賈島が「僧は推す月

下の門」がよいか、「僧は敲く」とするがよいか苦心した故事による。

今、 “推考” で代用するが、これでは全く味気ない。

遂 行 (スイコウ) 仕事をしとげること。よく “ツイコウ” と読み誤られる。

水 郷 (スイゴウ) 水辺の村里。特に水辺のけしきのすぐれた有名な土地。 “スイキョウ” とも言つ。

出 师 (スイシ) 軍隊を出すこと。師は軍隊。出は “だす” 意味のときはスイと読む。

推 薦 (スイセン) 自分が良いと思う人や物を他人にすすめること。薦はすすめる意。今

これを “推選” で代用する者が多いが、意味が違う。

吹 奏 (スイソウ) 管楽器で演奏すること。

出 納 (スイトウ) 納は入れること。出し入れ。支出と収入。

枢 機 (スウキ) 枢はとびらの回転軸の仕掛けのこと。肝腎要のたいせつな所という意味に使う。また、重要な政務を言う。

石井方式 漢字の覚え方

崇 高 (スウコウ) 崇・は高い山。気高く、尊いことを言う。

カンジンかなめ
枢 機 (スウキ) 枢はとびらの回転軸の仕掛けのこと。肝腎要のたいせつな所という意

誦 × 経 (ズキョウ) 経文を暗記して読むこと。

素性 (スジョウ) ①血筋。②育ち。③生まれつきの性質。 “素姓” とも書く。①の場合

はこのほうがよい。

静穩 (セイオン) 静かで穏やか。何事も起ららず平和なこと。

静寂 (セイジヤク) ひっそりと静かなこと。

脆弱 (ゼイジヤク) もろくて弱いこと。脆は脆が誤ったもの。脆はやわらかい肉のこと
で“もろい”意味に使われる。今の字体では“ギジャク”と読まれやすいので注意。

井然 (セイゼン) 区画が井の字形にきちんと整っていること。

西漸 (セイゼン) 漸は少しづつ進む意。だんだんと西のほうに移っていくこと。

清澄 (セイチョウ) 澄みきって清らかなことを言つ。

井然 (セイゼン) 区画が井の字形にきちんと整っていること。

贅肉 (ゼイニク) 贅はこのぶのこと。このぶは無用の肉であるから、太りすぎの意味に使つ。

清冽 (セイレツ) 冽はきびしい寒さを言つ。身がひきしまるような清らかさ。

施工 (セコウ) 工事を実施すること。

絶佳 (ゼツカ) きわめてよいこと。佳は優良の意。

刺客 (セツカク) 暗殺する役目を持つた人のこと。“シカク” “ジキャク” は慣用読み。

絶叫 (ゼツキョウ) ありつたけの声を出して叫ぶこと。絶は極端の意味。

殺生 (セツショウ) ①生き物を殺すこと。②残酷なこと。

截断 (セツダン) 物を断ち切ること。截は切と同義。裁と読み誤る者が多いので注意。

雪隠 (セツチン) 便所のこと。もと禪宗の用語。セツのツとイが重なつてチになつた。

刹那 (セツナ) 瞬間の意の梵語。

旋頭歌 (セドウカ) 和歌の一体。五七七五七七の六句から成る。

石井方式 漢字の覚え方

宣 下 (セング) 宣旨 (天子のおことば) を下すこと。
センジ

遷化 (センゲ) 高僧や隠者が死ぬこと。

穿孔 (センコウ) 孔は穴。穿は穴をあける。穴をあけること。また、あけた穴のこと。

鮮紅色 (センコウショク) あざやかな赤色。浅紅色 (ピンク色) センコウシヨク と混同しやすいので注意すること。

銓衡 (センコウ) 銓ははかりの分銅。衡ははかりざお。銓衡ははかりが本義。転じて人物・才能をはかる意味に使う。今は、『選考』で代用している。

閃光 (センコウ) 閃は、門の中に人をちらりと見ることで、『ちらつく』『ひらめく』

意。閃光はパッと光った光。

前栽 (センザイ) 庭先に植え込んだ草木。また、草木を植え込んだ庭。

穿鑿 (センサク) 細かい点まで根ほり葉ほりして知ろうとすること。

先蹤 (センショウ) 蹤は足のあとに従つてつく『足あと』。『先蹤』は先人の足あとの意

で、先例。今までにあつた実例を言う。
先達 (センダツ) 先にその道に達した『先輩』のこと。先に立つて案内する人の意にも
用いる。

洗滌 (センデキ) 滌は水をそいですすぐこと。洗いすすぐこと。條に引かされて『センジョウ』と読むようになった。今は『洗浄』で代用されるが、これでは『洗いすぐ』ではなくて『洗いきよめる』になる。

宣命 (センミョウ) 昔の詔勅の一種。いわゆる宣命体で書かれている。

闡明 (センメイ) 闡は門のとびらを片方 (单) だけ開くこと。転じて『開明』する意。

はつきりしなかつたことを明らかにすること。

憎惡△（ゾウオ）悪も憎む意。憎み惡むこと。

總括（ゾウカツ）括はぐくる意。総べ括ること。“一括”とも言つ。

總轄（ゾウカツ）全体を総べ取り締まること。

造詣（ゾウケイ）造も脂も到る意。学問や芸術の道に奥深く到達していること。

相好（ゾウゴウ）相は人相。顔かたち。表情の意。例 相好をくずす（喜んでにこにこすること）

莊嚴（ゾウゴン）莊は草が盛（壯）んに茂る意。転じて、おぞこかなること。非常に威厳があつて重々しい意味。

雜言（ゾウゴン）いろいろな悪口のこと。ゾウゲンとも言つ。

操作（ゾウサ）操はあやつる、作は働き、仕事。機械などをうまく使って仕事をするや茶道の先生など。

と。

相殺（ゾウサイ）殺はそぐ、削る。互いに削るの意。差し引きして帳消しにすること。

宗匠（ゾウショウ）文芸・技芸に熟達して人に教えることのできる人。たとえば、俳諧カイ

や茶道の先生など。

騷擾（ゾウジョウ）騒いで秩序を乱すこと。

簇生（ゾウセイ）竹がひと所に群生するように、草木が群がって生えること。

争奪（ゾウダツ）奪い合い。

莊重（ゾウチョウ）おごそかで重々しい。

装填（ゾウテン）物をこめること。例 弹丸を装填する・ファイルムを装填する

壯圖（ゾウト）壮大な計画。

蒼氓（ゾウボウ）人民。蒼生・青人草などとも言った。

石井方式 漢字の覚え方

総領（ソウリョウ）全体をまとめて管理する意のことば。家のあと取りのこと。長男。
疎外（ソガイ）よそよそしくて近づきにくいこと。

阻碍（ソガイ）じやます。妨げる。今は“阻害”と代用している。

遡及（ソキュウ）遡はさかのぼること。過去にさかのぼって効力を及ぼすことを言つ。

“サツキユウ”とは読まない。

仄聞（ソクブン）仄は側、傍の意。間接的に聞くの意。今は“側聞”と書く。

素行（ソコウ）平素（ぶだん）の行ない。

措辞（ソジ）辞（ことば）を措置するの意で、ことばの使い方。表現のしかた。

素地（ソジ）下地。もとになるもの。

塑像（ソゾウ）粘土や石膏で作った像。塑_{セッコウ}は土を削_{けす}（削）る意。

措置（ソチ）措は手を置く意。始末をつけることを言つ。処置。

大逆（ダイギヤク）道義にそむく最悪の行ない。主君や親を殺す行為を言つ。

堆積（タイセキ）堆は土の山、積は稲の山。物を上へ上へと積み重ねること。また、積まれた物を言う。

素封家（ソホウカ）官職や領地は持たないが、財産だけはたくさんある者のこと。

忖度（ソンタク）△寸も度も長さをはかること。忖は人の心をおしはかること。

存亡（ソンボウ）存在できるか、滅亡し去るか、ということ。

存命（ゾンメイ）命のあること、つまり、生きていること。

大官（タイカン）高官と同じ意。身分の高い官吏。

多寡（タカ）多いか少ないか。寡は少と同じ意。

兌換（ダカン）兌は換と同じ意。取り換えること。兌換紙幣は、正貨と取り換えること

ができる銀行券を言う。

他行（タギョウ）よそへ行くこと。

妥協（タキョウ）妥は安らか、穏やかの意。お互いの主張を譲り合って穏やかに結論を出すことを言う。

拓殖（タクショク）拓は石器を手にして土地を切り開くこと。殖は殖産・殖民の意。未開の土地を切り開いて田畠を作り定住すること。

諾否（ダクヒ）承諾するか拒否するか。

多言（タゲン）言（いとば）が多いの意で、おしゃべり。

他言（タゴン）他の人間に言うこと。

惰性（ダセイ）惰は怠ること。惰性はなまけぐせの意。物体が外力の影響を受けないかぎり、現在の状態を続けようとする性質をいう。

蛇足（ダソク）蛇を描く競争をしたときに、足を書き加えたために負けた、という故事から、余計なつけたしの意に用いる。

荼毗（ダビ）火葬（ボンゴ）。荼と茶との違いに注意。

惰力（ダリヨク）惰性の力。

弾劾（ダンガイ）罪や不正を調べ上げて、公開し、責任を問うこと。劾は追求の意。探索（タンサク）探は手さぐり、索は求める。人を捜し求めること。断食（ダンジキ）食を断つの意。修業のため、または療法として一定期間食べ物を食べないこと。

端緒（タンショ）端は物の切れはし、緒は糸口。ともに“物のはし”であるから、物事の初めを表わす。また、手がかりの意。

耽溺（タンデキ）耽は 嬢（タナヒタ）で 甚（はなはだ）しく 嬉（たの）むこと。溺はおぼれること。悪いことにおける

石井方式 漢字の覚え方

ぼれ、そればかりを楽しんで他を顧みないと。」と云つ。

耽[△] 読[×]
(タンドク) 夢中になって読み耽^{ふか}けること。

堪[△] 能[×]
(タンノウ) 堪^{カシニン}は堪忍の堪^{カシニン}で“たえる（もちこたえる）”が本義で、能と同じ意

がある。物事を巧みに仕遂げる能力のこと。カンノウが正しく、
タンノウは慣用。例 彼は書に堪能だ（わが国では、“じゅうぶんに

満足する”の意にも使う。例 じゅうぶんに堪能した）

蛋白質[×]
(タンパクシツ) 蛋^{おの}は卵。卵の白味のような物質という意味のことば。

短兵急[×]
(タンペイキユウ) 兵^{ひつ}は兵器、短^{たん}兵^{ひつ}は短い武器。だしぬけに襲^ううには短い武器のほう^うが役^たつので、急襲^{する}ことを短兵急^{と言}つ。にわか、だしぬけ、の意。

団[△] 繰[×]
(ダンラン) 繰^はは棟^{（おうち）}で喬木。夕方など木陰で涼を取るのに適している。

一家ひと所に集まつてなごやかに楽しむことを云つ。

鍛[△] 鍊[×]
(タンレン) 鍊^{（ねる）}は金属を熱してやわらかくすること。鍛^{（きたえる）}はそれを打ち固めること。これをくり返して金属はりっぱに成る。学問・
技芸に励むことのたとえに使われる。

地[○] 賀^{（チカク）} 賀^{（チカク）}は卵や実などの表面をおおつている“がら”。地球の外表の部分。

知[△] 己^{（チキ）} 己^{（おのれ）}を知る者の意。自分の心をよく理解してくれる友人を云つ。

逐[△] 鹿^{（チクロク）} 魏徵の詩に「中原また鹿を逐^おう」の句がある。政権や高位を得ようと
して群雄の争うことをたとえたもの。今は、選挙戦にこの語を使う。

知[△] 悉^{（チシツ）} 悉^{（チシツ）}は悉^{（ことごとく）}。知りつくす意。

褫[△] 奪^{（チダツ）} 褰^{（チダツ）}は衣をはぐこと。奪^{（チダツ）}は大鳥（隹）を横取りすること。官職などを取り

上げる意に用いる。

嫡流(チヤクリュウ) 本家の家筋。転じて、正統の流派。

抽象(チエウショウ) 抽は引き抜くこと。象は固有の形象。具体的な概念から、それに固有のものを引き抜き、全体に共通な属性を一般的な概念としてとらえること。

中枢(チュウスウ) 枢は枢機を参照。最も大事な物・所を言う。例 社会の中枢・中枢神経

抽籤(チュウセン) 築はくじ。くじを引くこと。今は“抽選”で代用している。

铸造(チュウゾウ) 鑄の本字は鑄型にとかした金属を流し込んだ形を表わしている。鑄^{いがた}型で道具を造ること。

躊躇(チュウチョ) 躊躇は足をとどめる、躇^{チヨ}は佇(たたずむ)。進もうか、退こうかと決

心しかねて足を止めること。ためらう、ぐずぐずする意に使う。

石井方式 漢字の覚え方	
超脱(チョウダツ)	俗事から高い境地へ抜け出ること。
暢達(チョウタツ)	のびのびしていること。
彫塑(チョウソ)	彫刻と塑像(この項参照)。彫は木や石や金属をほること。
寵臣(チョウシン)	寵は天子に信頼されている臣の家のこと。部下を愛する意に使う。
寵(チョウ)	寵臣はお氣に入りの部下。

打△
擲（チヨウチャク）擲はなぐる。打つたりなぐったりすること。
掉×
尾（チヨウビ）掉は手を高く振り上げること。尾を振ることから、物事の終わりに至つて勢いをふるうことを言う。また、『最後』の意に用いる。“トウ

ビ”は慣用読み。
例 捉尾を飾る

重複（チヨウフク）同じ物事が二度以上重なること。“ジュウフク”とも読む。

澄明（チヨウメイ）水の澄むのが本義だが、空気の澄み切っているのにも使う。

聴聞△（チヨウモン）聴は聞こうとして聞く。聞は耳からはいってくること。広く“人の話を聞く”という意味。

凋落（チヨウラク）凋は寒氣（こ）が周（あまね）く至つて草木のしぶむこと。花がしぶみ落ちるよう、勢力の衰えることを言う。

直截（チヨクセツ）直ちに切るの意。ためらうことなく決裁すること。また、回りくど

くない意に使う。“チヨクサイ”は載との類似から起つた慣用読み。

例 直截簡明

椿事（チンジ）

椿は珍（チン）の意で、珍事。めったに起つらないような、たいへんな

できごとを言う。

椿は、わが国では春に先がけて花を咲かせる常緑樹の“づばき”の

木のことだが、中国では、センダン科の落葉樹である。ところで、

莊子（チン）という本に出てくる椿（チン）という木はまさに珍木である。「八千歳をもつて椿とな

し、八千歳をもつて秋となす」と言うから、気の遠くなるような話である。いかにも

中国らしい話ではないか。



直轄（チヨツカツ）直接に管轄すること。

鎮守（チンジュ）鎮は金属で作った重し。“文鎮”的ように紙が散らないための抑えと

するところから、“静め治める”ことを表わす。その土地を静め治め、

住民を守ること。また、そのための神。また、神社。

追憶（ツイオク）追は過去を追う意。昔のことを思い起こしてなつかしいこと。

対句（ツイク）対照的に並べられた二つの句。

追讐（ツイナ）讐は呉音、漢音は打^タで、人が鬼を打つの意。節分の夜、豆をまいて鬼（病

気などのわざわいの象徴）を追い払う行事のこと。昔は、大晦日みそかに行なつた。

痛痒（ツウヨウ）痛みとかゆみと。例 痛痒を感じない（痛くもかゆくもない、つまり、

平氣だという意味）

定款（ティイカン）款は規約の箇条書き。会社などの組織や活動の根本規則。またそれを書きしるしたもの。

△
庭訓（ティイキン）家庭の教訓。しつけ。

遞減（ティイゲン）遞は遞送の項参照。次々と減つていいくこと。また、減らしていいくこと。

抵抗（ティイコウ）抵は手でおしのけること。抗ははりあうこと。外力にはりあい、それをおしのけようと努めること。

体裁（ティサイ）外から見える物の形や様子。外見。また、他人に対するみえ。

綴字（ティイジ）ことばのつづり。スペリング。“つづり字”とも読む。

遞送（ティイソウ）遞の呉音は代。代る代る行くが本義の字。宿駅では、馬を代えて、

次から次へと人や物を運んだ。これが遞送である。ゆえに、宿駅を駅遞と言つ。

石井方式 漢字の覚え方

抵当 (テイトウ) 抵は手が触れる、当たるの意味がある。相当するの意。借金の際、その金に相当する物を相手に渡す、その品物。

敵愾心 (テキガイシン) 憤の漢音はキで、喟 (ため息) が本義。慨に慣用される。敵に憤慨 (怒ること) してこれを倒そうとする心。

剔出 (テキシュツ) 剔はえぐる。悪い所をえぐり出すこと。

覗面 (テキメン) 覗は“見る”“人に会う”意。覗面は“見ている面前”転じて“すぐ様”の意に用いられる。例 薬が覗面にきいた

剔抉 (テツケツ) 掣もえぐること。人の秘密や欠点などをあばくことに用いる。

撤廃 (テツパイ) 撤は取り除くこと。今まで行なわれてきた制度や法規などを取りやめることに用いる。

添加 (テンカ) ある物に何かをつけ加える。添える。

甜菜 (テンサイ) 甜は舌に甘あまく感ずる意。甘い野菜の意で、砂糖大根とも言つ。根の汁から砂糖が取れる。

添削 (テンサク) 添えると、削ると。文章や答案などで、足りない部分は書き加え、よけいな部分は削つて、良いものにすること。

篆書 (テンショ) 漢字の書体の一種。カインショ 楷書・隸書のもとになつたもので、大篆と小篆

とある。今でも実印などに使われている。

恬淡 (テンタン) 恬は心のどかなこと。あっさり (淡白) としていて、ものに執着しない様を言つ。

天誅 (テンチュウ) 誅は責めとがめるのが本義で、処罰 (極刑を含む) すること。天罰の意。

天竺 (テンジク)

インドのことを呼ぶ古い言い方である。また、"高い空"の意味にも使われた。ヨーロッパ人の渡来後は、遠い外国から来たものには、それに天竺の名を添えて呼んだものが多い。たとえば、ダリヤのことを"天竺牡丹"、モルモットのことを"天竺鼠"と名づけたのなど実にみごとであり、おもしろいではないか。ほかに、"天竺^{ボタノ}葵"と名

木綿^{モメン}などのことばがある。

しかし、"天竺味噌"というのは、「唐^{カラ} (中国の呼び名) すぎる (辛^{カラ}すぎる)」のしやれで、辛子を入れたみそに、唐より遠い国の天竺^{カラ}をつけたものである。これまた、みごとな名づけ方ではないか。"天竺浪人"とは、青い目の浮浪者かと思うかもしれないが、単なる浮浪者にすぎない。家を逐電^{ねづみ} (逃げ出すこと) した、つまり『逐電浪人』を逆にして、"天竺浪人"としたものである。



奠[×] 都 (テント) 都を定めること。奠は神前に酒を供えるのが本義。神意によつて大事を定めるの意。

伝[×] 播 (デンパ) 播は種をばらまくこと。電波の広がり伝わることを言う。

天[×] 粿 (テンピン) 粿は稻を纏いおく所が本義だが、"受ける"の意に仮借される。天から受けたもの。つまり"天性"。

添[×] 付 (テンブ) 書類などに、ある物を添えること。

貼[×] 付 (テンブ) 写真などを書類に貼り付けること。正しくは"チョウフ"と読む。

顛[×] 末 (テンマツ) 顛は頭の頂。初めから終わりまでの意で、"事の一部始終" 全体の有様。

天[×] 佑 (テンユウ) 佑も佐も"助ける"。左手は右手を助け、右手は左手を助ける。『天佑神助』天の助け、神の助け。

佑神助 天の助け、神の助け。

倫 \times
 安 (トウアン) 倫は盜 (ぬすむ)。安きをぬすむの意で、将来を思わず安樂をむやまにすること。

統括 (トウカツ) 統は一つにまとめる。括はくくる。ばらばらのものをまとめて一つにくくること。

投函 (トウカン) 函は箱。箱に入れるの意で、郵便物をポストに入れること。

騰貴 (トウキ) 謄は宿場馬が本義。登の意に使う。値段の上がることを言う。

刀圭 (トウケイ) 藥をもるさじのことで、医術の意に用いる。医者のことを“刀圭家”と叫ぶ。

憧憬 (ドウケイ) あこがれ。正しくは“ショウケイ”。

踏査 (トウサ) 現地を踏んで調査する意。

洞察 (ドウサツ) 洞はほら穴、突き抜ける意を借りて、“見抜く”こと。察は注意して

見ること。

透写 (トウシャ) 透は通り抜けるが本義で、すきとおる意に使う。すき写し。

謄写 (トウシャ) 謄は言 (ことば) を重ねる。原本のままを写し取って、同じ文のものを重ねて作ること。できたものを“謄本”と叫ぶ。

踏襲 (トウシュウ) 蘭は重ね着が本義。くり返す意を借りて今までのやり方をそのまま踏んでくり返すこと。

淘汰 (トウタ) ①不用・不適のものを排除すること。②生存競争により環境に適応しない種が死滅し適応するものだけが残ること。

投擲 (トウテキ) 擲は投げ打つ。円盤投げ、砲丸投げなどを投擲競技と言つ。

滔蕩 (トウトウ) ①広くて大きい様子。②穏やかな様子。のどかな様子。

石井方式 漢字の覚え方

滔 \times	蕩 \times	投	淘 \times	汰 (トウタ)
滔 \times	蕩 \times	擲 \times	汰 (トウタ)	①不用・不適のものを排除すること。②生存競争により環境に適応しない種が死滅し適応するものだけが残ること。

陶冶（トウヤ）陶器を作り鑄物をいることだが、才能や性質などをねつてりつぱに作り上げることを言つ。

棟梁（トウリョウ）棟はむね。梁ははり。家を支える重要な部分であるところから、家を支え、国を支える重任にある人を言つ。

例 一国の棟梁

頭領（トウリョウ）多くの者之上に立つ人。かしら。

読経（ドキョウ）声を出してお経を読むこと。【参照】看経

読誦（ドクジュ）声を出してお経を読むこと。

独壇場（ドクダンジョウ）その人だけが活躍する場所。ひとり舞台。独壇場を誤つて壇にしきのことがができる。壇は手中に独占する意。ほしままにする。

匿名（トクメイ）匿はかくす。自分の名前をかくして知らせないこと。例 匿名の投書

屠殺（トサツ）屠は家畜を殺すこと。肉や皮を取るために獣類を殺すこと。

屠蘇（トソ）屠蘇散をひたした味酔ミリ。独特の香氣があり、不老長寿の効があるとして正月の祝い酒にする。

土壤場（ドタンば）首切りの刑場のこと。転じて物事の決定しようとする最後の瞬間・場所。

咄嗟（トッサ）咄は口から出すチエツという舌打ちの声。嗟はああと嘆く声。ごく短い時間のことを言つのに用いる。例 咄嗟に身をかわす

訥弁（トツベン）訥はことばが内にこもって外に出ないこと。どもる。つかえつかえしゃべる話し方を言つ。話しひた。【反対】能弁

怒濤（ドトウ）濤は大波。激しく荒れ狂う大波。例 さかまく怒濤

駑馬（ドバ）駑はのろい馬。【反対】駿。才能のにぶい人のたとえ。例 駑馬に鞭打つ

を折る（坐は足を折る）。今までうまく進んできた物事が急にくじけること。

頓首（トンショウ）中国の礼では、頭を地につけ敬意を表わした。手紙の終わりに頓首と書いて敬意を表するわけ。

と書いて敬意を表するわけ。

頓智（トンチ） 機に応じて直ちに働く知恵。

頓智(トニチ) 機に応して直ちに働く知恵

貪
婪（ドンラン）貪は財をむさぼる。婪は女に対してつしみがない。何でもほしがり

卷之三

欲望に際限のないこと。

×
部(ナニカ)。即ち、
部(ナニカ)。

捺印（ナツイン） 捺はおす 印をおすこと

納得（ナットク）心の中におさめるの意で、他人の考え方・行為を理解し、もつともだと

續行之書卷之二

軟禁（ナンキン）やわらかい監禁の意で、身体の自由は拘束しないが、外部との交渉を

断つこと。

△ 難渉（ナンジュウ）筆がすらすらと進まぬことや物事がはからぬことをいう。
戸（ナンド）納め置く所の意で、家財・衣服・調度などをしまって置くへや。
難破（ナンパ）^あ難に遭つて破れるの意で、船が暴風に遭つて破損し、航行できなくなる

۱۱۷

肉腫（ニクシユ）体内の組織に生ずる悪性の腫瘍（はれもの）^{・ヨウ}

憎體(にくたい) 憎らしげなこと。

入声（ニツショウ）漢字の古い四声の一つ。捉音。今の表記で、小さく“つ”と書くも

の。字音かなづかいで、**ブクツチキ**になるもの。
（学校）・達（達者）・吉（吉報）・敵（敵機）。

鈍色(にびいろ) 淡いねずみ色。

入寂（ニュウジャク）憎が死ぬこと。

柔和（ニュウワ）人相や性格がおだやかでやさしいこと。

如意（ニヨイ）意の如しの意で、物事が思いのままになること。

如来（ニヨライ）仏のこと。真如（一五ページ参照）より来るの意。

刃傷（ニンジョウ）刃物で人を傷つけること。

忍辱（ニンニク）恥を耐え忍んで、心を動かさないこと。

捏造（ネツゾウ）捏（ねつ）は土をこねること。捏土で器具を造るの意から、根も葉もなないこと

をでつち上げることを言つ。

涅槃（ネハン）梵語（ボン）。いつさいの煩惱（ボンノウ）から解脱（ゲダツ）した不生不滅の高い境地。

粘液（ネンエキ）粘り気のある液。

年貢（ネンゴ）年々の貢物（みつさきもの）の意で、租税や小作料を言つ。

捻出（ネンシュツ）ひねり出すの意で、出そうにもないところからなんとかして出すことを言つ。

把握（ハアク）把も握も、にぎる、つかむの意。理解することの意に用いる。

胚芽（ハイガ）胚は胎内の子。植物の種の中で将来成長して芽となる部分。

陪審（バイシン）審議に陪席するの意で裁判に民間人の関与する制度。

排斥（ハイセキ）おしのけ（排）しりぞける（斥）こと。

排泄（ハイセツ）泄はもらすこと。動物が不要になつたものを体外に出すこと。

俳壇（ハイダン）俳句を作る人々の社会。

莫逆（バクギャク）逆らうことなしの意で、意氣投合する親しい間がらを言つ。

白眉（ハクビ）蜀（ショク）の馬良の兄弟五人ともに才名があつたが、眉（まゆ）に白い毛のあつた馬良

暴露（バクロン）暴は日にさらすが本義。露にさらされるの意で、雨風にさらされるの意で、また、暴も露も、あらわす、あらわれるの意で、秘密や悪事をあばくこと、またあらわれる（露見）こと。

駁論（バクロン）駁は毛色のまだらに入りまじった馬。議論が入りまじるの意で、他人の意見を非難攻撃することを言つ。

跛行（ハコウ）跛はびっこ。また、偏頗（かたよる）。足のぐあいが悪く、正しく歩くことができないことだが、つりあいが取れない意に用いる。

破碎（ハサイ）破り碎くこと。また破り碎けること。

破綻（ハタン）タ綻は糸が切れ（断）てほこうびること。物事が破れほこうびるよつにうまくいかなくなること。

八朔（ハツサク）朔は朔日（ついたち）。陰曆八月一日。

跋涉（バツショウ）山を越え、川を渡ることで、方々を歩き回る意に用いる。

擢拔（バツテキ）擢（基礎編鶴参照）。多くの中から選んで引き抜き用いること。

法度（ハツト）法令。特に禁制。

發布（ハツブ）天下にあまねくしくこと。
例 憲法發布

波濤（ハトウ）濤は大波。海のこととを言つ。

破風（ハフ）切妻屋根の端につけた山形の板。

破廉恥（ハレンチ）廉恥を破るの意で、恥を恥とも思わぬ鉄面皮（厚顔）をいう。廉は心が清いこと。

挽歌（バンカ）挽は引く。昔、葬送のとき、ひつぎを引く者の歌つたことから、死者をいたむ詩歌を言つ。

煩瑣（ハンサ）瑣は玉の屑で、細かい（瑣細）こと。細かすぎて煩わしいことを言つ。

石井方式 漢字の覚え方

磐 ×	石 (バンジャク) 大きな岩。きわめて堅固なこと。
反芻 ×	芻 (ハンスウ) 芻は刈り取った草。牛馬の飼料。飲み込んだえさを口の中にもどし、もう一度かみなおすこと。転じて、くり返し考え味わうことを言う。
範疇 ×	（ハンチュウ）同一性質のものの属すべき部類。カテゴリーの訳語。
反駁 ×	（ハンバク）駁論の項参照。
颁布 △	布 (ハンブ) 布は広く行き渡らす意。頒は分ける。広く分け配ること。
氾濫 ×	（ハンラン）氾は濫 (基礎編監の項参照) と同義。河川があふれ、 <small>コウズイ</small> 洪水になること。
凡例 △	（ハンレイ）本の初めに掲げるその本の利用法について書かれた条項。例言。
汎論 ×	（ハンロン）一般的な論。また概括した論。
罷業 (ヒギョウ)	業を罷めるの意で、ストライキの訳語。
氷雨 (ひさめ)	①雹・霰。②冷たい雨。
必携 (ヒツケイ)	必ず携え持つべきものを言う。
逼塞 (ヒツソク)	逼は迫る。塞はふさぐ。①八方ふさがりの状態。②落ちぶれて世間から隠れる。③門を閉じて昼間の出入りを禁じた刑。
秘匿 (ヒトク)	ひそかに匿す。
瀰漫 (ヒマン)	瀰は満ち満ちる意。(漫は基礎(編)漫参照) ある気分・風潮などが広がりはびこる意。
剽窃 △	（ヒュウ）たとえ。比喩とも書く。(基礎(編)辟・俞参照)
譬鑑 (ヒヤク)	秘密のかぎ。
軽妙 (ヒョウキン)	剽は軽快の意。気軽で滑稽なこと。
剽窃 ×	剽はかすめる。窃はぬすむ。かすめぬすむ意だが、他人の文章をぬ

すみ使うのに用いる。

平△ 仄× (ヒヨウソク) 漢字の四声のうち、平声を平とし、上声・去声・入声を仄とする。

披△ 露× (ヒロウ) 披は開く。露はあらわす。①文書などを開いて皆に見せる。②公に

発表すること。

品× 驚× (ヒンシツ) 品評。品定め。

鼙× 騒× (ヒンシユク) 騒は顔をしかめる。騒は足の縮む意だが皺を寄せる意に用いた。不

快の色を表わすこと。

例 騒騒を買う

憫× 笑 (ヒンショウ) 憐は憐 あわれ む。軽蔑と憐みとをこめた笑い。

敏× 捷 (ヒンショウ) 敏も捷もすばやい意。

便乘 (ビンジョウ) 便宜に乗るの意。他の人が車に乗るのを利用して、それに乗せても
•••
らうこと。転じて、広く機会をとらえ権威を利用したりすること。

石井方式 漢字の覚え方

瘋× 吹△ 聽 (ふいチョウ) 吹は宣伝の意。言ひふらすこと。

癲× 音 (ブイン) 音沙汰無しの意。久しくたよりをしないこと。また、黙っていること。
無音 (ブイン) 音沙汰無しの意。久しくたよりをしないこと。また、黙っていること。

風体 (フウテイ) 姿。身なり。

頻繁 (ヒンパン) 繁は多い、盛んの意。しばしば、盛んに、の意。
頻 (ヒンセキ) 擃も斥もしりぞけること。
度 (ヒンド) 頻は顔に皺を寄せる (鼙) のが本義だが、しばしばの意に用いる。同じ
ことがくり返して起ころる度数。出現度数。

風来坊（フウライボウ）風の来るがごとく、どこからともなくさまよい来た者。

不壊（フエ）△ こわれないこと。堅固。

賦役（フエキ）賦は租税。特に地租をいう。役は夫役。どちらも公事に奉ずる仕事。

敷衍（フエン）衍は水の広がること。わかりやすいようにことばをつけ加えることを言う。

不穏（フオン）穏やかでないこと。

不羈（フキ）羈は馬の手綱。束縛されないことを言う。

馥郁（フクイク）馥は基礎編復。郁は地名が本義。盛んな様に用いる。よいかおりが盛んにただようこと。

福音（フクイン）幸福な音づれの意。よい知らせの意だが、キリストの教えの意に用いられる。

復讐（フクシュウ）讐は酬。讐は言に酬いるの意。返答が本義。仕返し・仇討ちの意に用いる。

輻輳（フクソウ）方々から寄り集まって込み合うこと。（基礎編畳用参考）

覆轍（フクテツ）顛覆した車輪の跡。後ろの車にとってよい注意になるので、参考になる前例△ という意に用いる。

服喪（フクモ）喪（死んだ人の近親者が、一定期間謹慎すること）に服する。

分限者（ブゲンシヤ）金持ちの意。
△ 例 不細工な顔

不細工（ブサイク）細工がましいの意で、醜い意にも用いる。例 不細工な顔

不死身（フジミ）死がない身体の意で、強い身体や意志の強い人の意に用いる。

浮腫（フシュ）むくみ。

不精（ブショウ）精を出さないの意。めんどうがりを言う。無精とも書く。

普請（フシン）普はあまねし。あまねく人に請うて、寄付金により堂塔の建築をした（）
とから、建築の意に用いる。

不粋（ブスイ）粋でないこと。野暮。^{いき}野暮。^{ヤボ}無粋とも書く。

布施（フセ）僧侶などに金銭物品を施し与えること。

風情（フゼイ）独特の趣・味わいの意。

無勢（ブゼイ）人数が少ないこと。

扶桑（フソウ）東海の日の出る所にあるという神木。転して、日本の称。

負担（フタン）負も担もになうの意。自分のすべき仕事・義務を言う。

扶持（フチ）生活を扶助し、保持するものの意で『給料』を言う。

払拭（フツショク）払い拭うの意で、すっかり除き去ること。

沸騰（フツトウ）騰は登の仮借。^{トウ}沸き上がるの意。

不逞（フテイ）逞はたくましい、心のままにふるまうの意。不逞もその意に使う。
しかることと『怪しからぬこと』とが同義なのと全く同じ。^ケ

埠頭（フトウ）埠は盛り上げた土。舟を着ける所を言う。

不如意（フニヨイ）意の如くならずの意。思つままにならぬこと。家計の苦しいことを言う。

う。

赴任（フニン）任地に赴くこと。^{むかひむ}

無人（ブニン）人手が足りないこと。

不憫（フビン）憫・愍はあわれむこと。憫なること。かわいそとの意に使う。

報（フホウ）計は赴き告げる意。^{おもむ}死亡の知らせを言つ。

夫役（フヤク）公事に人夫として従事すること。昔の公民としての義務の一つ。

無頼（ブライ）頼るべき所のこと。多く無法者の意に用いる。^{たよ}

言つ。

不埒（フラチ）埒は馬場の围い。埒がしてないこと。道理にはずれ、けしからぬことを言つ。

腐爛（フラン）腐り爛れること。今は、腐乱で代用しているが、意が通じない。

無聊（ブリョウ）聊は耳鳴りが本義。退屈の意に使つ。

紛糾（フンキュウ）紛は糸が分散すること。糾は糸がからまること。糸がもつれたよう

に物事が混乱すること。

分蘖（ブンケツ）蘖は切株から出た芽。稻麦などの根のきわから茎が枝分かれすること。

紛擾（ブンジュウ）争いなどでもめること。

忿怒△（フンヌ）忿は憤と同義。怒も同義。大いに怒ること。今は憤怒で代用し、フンドと読む。

石井方式 漢字の覚え方

偏執（へんしゅう）偏見（かたよった意見）を固執して他人の意見を入れようともしない。

書物の材料を集めて書物を完成すること。

睥睨（ヘイゲイ）睥睨も、横目でにらむ。

平衡（ヘイコウ）衡ははかりの竿。それが平らであるから、つりあいの取れていることを言つ。

閉塞（ヘイソク）閉じ塞ぐこと。

辟易（ヘキエキ）辟は避ける。易は変える。相手の勢い、または困難におされてしりぞみすること。

偏見（ヘンケン）偏はかたよること。かたよった見方。偏見。

霹靂（ヘキレキ）劈くよつな雷鳴を言つ。

編纂（ヘンサン）纂は糸を集め、編は糸である。昔の文書は竹筒を編んだ巻物である。

石井方式 漢字の覚え方

いこと。片意地。

偏 頗 (ヘンバ) 頗は頭を傾けること。公平でない、片手落ちの意に使う。

翻 翻 (ヘンポン) 鳥が羽をぱたぱたさせること。旗のぱたぱたひるがえる様を言つのに

用いる。

返 戻 (ヘンレイ) 返し戻す。

布 衣 (ホイ) 官服でない、民間人の衣。平民の意に用いる。

母 音 (ボイン) 声が舌や くちびる 唇、その他で妨げられないで出るときの音。

包 含 (ホウガン) 中に包み含むこと。

抛 棄 (ホウキ) 抛は投げうつ。投げうつて棄てる。今は放棄で代用する。

幫 助 (ホウジョ) 幫も助の義。手助け。

放 縱 (ホウショウ) 気ままにふるまうこと。縱の音がないので放縱と読むが、正し

ホウジュウ

くない。

饒 (ホウジョウ) 饒は食べ物の豊かなこと。広く物の豊かにあること。

呆 然 (ボウゼン) 呆は アホウ 洞呆、愚かなこと。ぼんやりとしていること。

厖 大 (ボウダイ) 庝は大の義。非常に大きい意。今は膨大で代用している。

放 逐 (ホウチク) 追い払うこと。

防 謀 (ボウチョウ) 謀はことばをかすめる義。スパイを言つ。スパイを防ぐこと。

拋 棄 (ホウテキ) 投げうちすること。今は放擲で代用している。

封 土 (ホウド) 封建君主の諸侯に与えた土地。

放 城 (ホウラツ) 気ままをし酒色におぼれること。馬が埒から放たれる意のことば。

“不埒” フランチ を参照。

ト 篠 (ボクゼイ) 亀トと笙竹。亀も筮も占うらないに使うもの。占いをいつ。

教え導く人の意に用いる。

木 鐸(ボクタク) 黄 中国で法令をふるるときに鳴らした鈴の一種。世人に警告を発し、
訥(ボクトツ) 朴は撲で未加工の木。訥は言内に「もるの意。飾りけがなく無口な」
と。

反 古(ホゴ) 書き損じの不用の紙のこと。転じて広く役にたぬことを言つ。

発起(ホツキ) 計画を起[△]すこと。発は起と同義。

发作(ホツサ) ある症状が突然的に起[△]ることを言つ。作は起と同義。

発足(ホツソク) 団体が作られ、活動を始める[△]ことを言つ。

発端(ホツタン) 起こり。始まり。

補 填(ホテン) 欠けた所を[△]うずら 填め補うこと。

煩惱(ボンノウ) 悩み煩[△]いの意で、心をかき乱す欲望を言つ。

石井方式 漢字の覚え方

未 瑞(みずほ) 瑞々しい稻の穂。日本の古い国名。
聞(ミモン) 未だ聞かずの意。まだ聞いたことがない珍しいこと。

いことを言つ。

密 微塵(ミジン) 微細な塵の意で、[△]微細(ビ) の意に用いる。
漁(ミツリョウ) 法を破つて漁すること。

未遂(ミスイ) 未だ遂げずの意で、計画だけで着手しない、また着手しても遂行できな

本望(ホンモウ) 本来の望み。前々から望んでいたこと。
翻弄(ホンロウ) 思いのままに[△]弄[△]ぶこと。
邁進(マイシン) 邁は①遠く行くが本義。②努め励む。③すぐれる。元気に進むこと。

埋設(マイセツ) 地下に埋めて設備すること。

巴(まんじともえ) 互いに入り混り入り乱れること。

微塵(ミジン) 微細な塵の意で、[△]微細(ビ) の意に用いる。

冥 [×] 加 (ミョウガ) 知らず知らずに受ける神仏の加護。また、冥利の意。
 利 (ミヨウリ) 善行の報いとして得た幸福。また冥加の意。
 無碍 (ムゲ) じやまする障碍がないこと。

胸算用 (むなざんヨウ) 胸の中での計算。

謀叛 (ムホン) 君主にそむいて兵を起こすこと。

名刹 (メイサツ) 刹は梵語で寺院の意。有名な寺。刹は漢音。吳音はセツ。

明晰 (メイセキ) 晰は明と同義。哲とも書く。ある概念と他の概念との区別が明晰に

理解されていて混同されないこと。

面目 (メンボク) 顔の意で、人に会わせる顔。つまり、世間にに対する名譽。

猛禽 (モウキン) 性質の荒々しい肉食の鳥。

亡者 (モウジヤ) 死者。特に成仏できずに迷っている者。金銭など物欲に執着してい

る者を言う。例 我利我利亡者

蒙昧 (モウマイ) 蒙も昧も暗い意。知識が低く道理に暗いこと。

朦朧 (モウロウ) 朦も朧も用のおぼろうこと。意識がぼんやりとはつきりしない意に

用いる。

耄碌 (モウロク) 碌は石がごろごろしていること、役にたたぬ意に用いる。老いぼれるいこと。

默示 (モクシン) 口に出して言わせず、暗黙のうちに考えを示すこと。キリスト教では神が人に神意や真理を示すことを言つ。

祈祷 (モクトウ) 無言で祈りをささげること。

石井方式 漢字の覚え方

猛 [△]	沫 [×]	蒙 [×]	昧 [×]	朦 [×]	朧 [×]	耄 [×]	碌 [×]	默 [×]	示 [×]	祷 [×]	沐 [×]	浴 ^{（モクヨク）}	（モクヨク）	
者 [△]	浴 ^{（モサ）}													

（モサ）勇敢で気力に富む人のこと。

悶着（モンチャク）悶は心がとざされてもだえること。もめじとを言つ。
文盲（モンモウ）文字が読めない意で、無学の者を言つ。

約定（ヤクジョウ）約束して定めること。

厄日（ヤクび）災難の起つる悪い日。

夜叉（ヤシャ）梵語。インドの鬼神。

約款（ヤツカン）契約・条約などの取り決めの一つ一つの条項。

唯一（ユイイツ）ただ一つ、ほかに類のないことを言つ。

遺言（ユイゴン）遺は残す。死後に残すことば。

由緒（ユイシヨ）由はゆ、果実の木につながつて育成するいわれ。物事のそもそももの

起こりを言つ。（緒は基礎編著者参照）

結納（ゆいノウ）結婚の約束の証として品物を納めること。

△ 結納（ゆいノウ）・結婚の約束の証として品物を納めること。

誘掖（ユウエキ）掖は腋の下から支えること。ねんじろに導くことを言つ。

誘拐（ユウカイ）拐は甘言（口）やおどし（力）で女・子どもをだまして連れ出すこと。

雄渾（ユウコン）渾は大河があらゆるものを一つに混ぜ合わせて勢いよく流れること。

文章が雄大で力強くよどみなすことを言つ。

遊説（ユウゼイ）主張を説いて各地を歩き回ること。

△ 油然（ユウゼン）油は川の名。とろりとした流れであるところからあざらの意に用いられる。静かだが力強い有様を言うのに用いられ、雲の盛んにわき起ころ様などを言つ。

輸贏（ユエイ）勝負の際の数取りを相手に渡すのが輸、つまり負けること。贏は盈（満

つる）で、それがあり余るほどある、つまり勝つこと。勝負の意味を表わす。

遊△山（ユサン）野山に遊びに行くこと。

湯桶（ゆトウ）食後に飲む湯を入れて置く木製の容器。

容喙（ヨウカイ）容は入れる。喙は口ばし。口ばしを入れる、つまり横から口出しすることを言つ。

窯業（ヨウギョウ）窯かまで焼く仕事を意で、陶磁器製造業を言つ。広くはガラス・セメント・煉瓦レンガ製造をも含む。

擁護（ヨウゴ）擁は手で小鳥をだきかばう意。大事にまもり助けること。

容赦（ヨウシヤ）赦は罪をゆること。ゆるしを入れる。

要衝（ヨウショウ）衝はハと重で交通上重要な所を表わす。広く“重要な地点”的に用いる。

養生（ヨウジョウ）生命を養うの意で、健康に心がけること。

養殖（ヨウシヨク）魚・貝などを人工的に育てふやすこと。

夭折（ヨウセツ）夭は首の曲がった人の象形で、首の定まらない幼児を言つ。幼くして死ぬこと。若死に。

要諦（ヨウテイ）諦は仏教の悟りのこと、物事の最もたいせつな点を言つ。ヨウタイが正しい読み方。

搖籃（ヨウラン）ゆりかご。

余蘊（ヨウン）蘊は蓄。余分の蓄えの意だが、余り、残りの意に用いられる。

【例】余蘊

なく研究する

沃野（ヨクヤ）沃は水をかける。地味の肥沃な平野の意。

抑揚（ヨクヨウ）抑はおさえる、揚は引き伸ばす。声（または文章）に変化をつけることを言つ。

予饌会（ヨセソカイ）前もって 饌（はなむけ）する会の意で、卒業前に行なう送別会などを言つ。
磊（ライラク）磊は大きな石の積み重なつてゐること。心が大きくて、小事にこだわらぬことを言つ。

烙（ラクイン）焼き印。刑罰として罪人の額に付けたことから、ぬぐいきれない汚名を受けることに言つ。

落胤（ラクイン）落としだね。身分の高い男が正妻でない女に生ませた子を言つ。
落魄（ラクハク）魄は死者の 魂（たまし）（天に昇るのを魂、地上に残るのを魄と言つ）の意から落ちぶれる意に用いられる。身分や生活の落ちぶれること。

螺旋（ラセン）巻貝（螺）のようにぐるぐるまいていること。また、ねじのこと。

落款（ラツカン）書画に筆者が署名し、また雅号の印を押すこと。またその署名や印。款は心の中を表示する意。器物に刻む銘を款識（カンシキ）と言つ。

辣（ラツワン）辛は注射針、束はいばら。辣はす（さ）くせ（せ）い意。す（さ）い腕（うで）、てきぱきと物事を処理すること。

濫觴（ランショウ）揚子江もその源は 艦（さかずき）を濫（うが）べるくらいだという孔子家語から、物事の始まりの意に用いられる。

濫造（ランゾウ）みだりに造ること。“粗製濫造”と言つ。（基礎編監の項参照）

懶惰（ランダ）なまけ怠（おいた）こと。ライダと読むのは誤り。

乱丁（ランチョウ）丁は書物のページ。ページの順序が違つてゐること。

藍本（ランポン）よりぞ（ぞ）になる原本・原典を言つ。また、絵の下書き。

襤（ランル）ぼろきれ。

經（リクケイ）易經・詩經・書經・春秋・礼記・樂記の六つの經典を言つ。

書（リクショ）漢字の成り立ちを分類した象形・指事・会意・形声・転注・仮借を

言つ。

行 (リコウ) 履は足で歩むこと。約束などを実際に行なつることを言つ。

履 罷 (リサイ) 罷は心にかかるが本義。災 わざわ いにかかること。災害を受けること。

隆 盛 (リュウセイ) 隆とは丘 (丘) の盛り上がる意で盛んな意に用いられる。勢いの盛んになること。

隆 替 (リュウタイ) 隆汚とも同じ。盛衰の意。

流 賜 (リュウチョウ) ことばがなめらかに出てよどみないこと。賜は基礎編易の項参

(照)

柳 眉 (リュウビ) 柳の葉のように細く美しいまゆの意で、美人の形容。

領 袖 (リョウシュウ) 領はえり、袖はそで。衣服の目だつ部分であるところから、集団のかしらを言つ。

諒 咎 (リョウジョ) 事情をくんでゆるすこと。
吝 嗜 (リンショク) けち。

輪 廻 (リンネ) 車輪が回転するように、世の中の万物は生死榮枯をくり返すことを言つ。

凜 冽 (リンレツ) ほほ氷。寒氣のきびしいことを言つ。

累 進 (ルイシン) 累は糸を重ねること。官位などの次々と進級することを言つ。

屢 次 (ルジ) 屢はしばしば。しばしばの意。

流 説 (ルセツ) 一般に広まった説。

流 転 (ルテン) 仏教で、生死因果が輪廻して窮まりなすことを言つ。

縷 縷 (ルル) 糸の切れないで長く続くこと。いまいまと述べる様を言つ。

隸 徒 (レイジュウ) 隸は徒と同義。部下となつて徒うこと。また郡下の意。

石井方式 漢字の覚え方
黎 × 流 輪 咎 咎 (リョウジョ) 事情をくんでゆるすこと。
縷 × 輪 廻 (リンネ) 車輪が回転するように、世の中の万物は生死榮枯をくり返すことを言つ。
隸 徒 (レイジュウ) 隸は徒と同義。部下となつて徒うこと。また郡下の意。
明 (レイメイ) 黎は黒い意で、夜の明けようとする前の暗黒をさす。その暗黒から明

石井方式 漢字の覚え方

轢	死 (レキシ)	轢は車でひくこと。車にひかれて死ぬこと。
廉	潔 (レンケツ)	心が清く、行ないが正しいこと。
袂	袂 (レンベイ)	<small>たもど</small> 袂を連ねるの意で、そろつて同じ行動を取ること。
漏	洩 (ロウエイ)	漏も洩も もれる。秘密のもれることに用いる。ロウセツが正しい。
老	嫗 (ロウオウ)	女の年寄り。
老翁	(ロウオウ)	男の年寄り。
陋	屋 (ロウオク)	狭くてみすぼらしい家の意で、自分の家の謙称に用いる。
藉	狼藉 (ロウゼキ)	<small>おおかみ</small> 狼が草を藉いて寝たあとの乱れていることから、乱雑な様子を言
狼	狼	う。また乱暴を働くことをも言う。
壘	壘断 (ロウダン)	壘は田のうね。転じて高い所。高い所に登り、市場全体を見るることに
猥	籠絡 (ロウラク)	より大きな利益を得たという故事から、利益や権利を独占することを
猥	狼過 (ロウバイ)	言つ。
賄	縫 (ワイセツ)	性に関することを、健全な社会風俗に反する態度で取り扱うこと。猥
賄	賂 (ワクデキ)	は卑しいの意。縫ははだ着が本義で、けがらわしい意。
溺	溺 (オバ)	溺も溺る意。心がとらわれたため判断力を失うこと。溺

るくなりかけるところ。

四字の熟語

安心立命（アンシンリツメイ）天命に任せ てつまらぬことに心配しないこと。

暗中模索（アンチュウモサク）模は摸が本字。手さぐり。（基礎編莫の項参照）暗やみの中を手さぐりで搜すことから、どうしてよいかわからずにいろいろや

つてみることを言つ。

意氣軒昂（イキケンコウ）軒は家のき。意氣高く上がること。意氣衝天、意氣揚揚な

どの語もある。

異口同音（イクドウォン）口は異なるが言つことは同じ、意見が一致すること。

一攫千金（イツカクセンキン）莫大な財産を一つかみにすること。

因循姑息（インジュンコソク）因は依る、循は従う。改めなければならぬのに旧い慣例に

合縱連衡（ガツシヨウレンコウ）合縱は縦に合同すること、連衡は横に連合すること。戦

国時代、蘇秦は南北（合縱）に同盟して秦に対抗することを説き、張

儀は秦と結ぶことを説いた。これらを“縦横家”と言つ。

我田引水（ガデニンインスイ）我が田に水を引く、つまり、自己の利益になるように言つた

りしたりすること。

○ 画竜点睛（ガリョウテンセイ）睛はひとみ。竜を描いて最後にひとみを書き入れたら、画

竜が天に上ったということから“最後に加えるたいせつな仕上げ”

を言う。 **例** 画竜点睛を欠く

苛斂誅求（カレンチュウキュウ）税金をむごく取り立てることを言う。

夏炉冬扇（カロトウセン）夏の火鉢、冬の扇、つまり“時節に合わない無用の長物”的に用いる。

× × × × × 侃侃諤諤（カンカンガクガク）侃はことばの強く正しいこと。諤は卒直に言うこと。正し

いと思ふことを直言することだが、よく誤ってケンケンガクガクと言われる。

汗牛充棟（カンギュウジュウトウ）蔵書の多いことを言う。重さは牛も汗をかくほどで、かさは棟につかえるほどあるという意味。

換骨奪胎（カンコツダッタイ）古人の詩句や構造に手を入れて一部を変え、これを自分の作品にすることを言う。

冠婚葬祭（カンコンソウサイ）元服と婚礼と葬儀と祖先の祭典。慶弔の儀式を言う。

× × 頑迷固陋（ガンメイコロウ）頑固で、見聞が狭く、古くさいこと。

旗幟鮮明（キシセンメイ）幟は合戦のとき、自分の存在を明らかにする旗じるし。転じて、表だって示す主張や立場を明らかにすることに用いる。

疑心暗鬼（ギシンアンキ）疑う心が起つるとありもしない鬼が見えてくるように、何でもないことでも、疑い出すと恐ろしくなることを言う。

氣息奄奄（キソクエンエン）息も絶え絶え、今にも死にそうな様子を言う。

教唆煽動（キョウサセンドウ）おだてそそのかして、ある行動を起こすようにしむけること。煽は扇で火をあおぐこと。当用漢字にないので“扇動”と使う。

行住坐臥（ギョウジュウザガ）日常の行為。転じて“日常”“平生”^{（ハイゼイ）}の意味に使う。

驚天動地（キョウテンドウチ）天を驚かし、地を動かすほどの大事件という意味。

曲学阿世（キョクガクアセイ）学問（真理）を曲げて世の人の気に入るような説を唱えること。阿はおもねる。世におもねる。

玉石混淆（ギョクセキコンコウ）玉と石と、つまり、すぐれたものとつまらぬものと入り混じっていること。今は“混交”と書く。

毀譽褒貶（キヨホウヘン）悪口とほめことば。

金科玉条（キンカギョクジョウ）金や玉のよつぱな法律文。つまり、このうえなくたいせつにして従うべききまりを言う。

欣喜雀躍（キンキジャクヤク）大喜びで小踊りすること。

金城湯池（キンジョウトウチ）金で作った城と熱湯を入れた堀の意で、非常に守備の固い城を言う。“金城^{（チッペキ）}鐵壁”^{（テッペキ）}ということばもある。

欽定憲法（キンテイケンボウ）君主の命によって選び定められた憲法。明治憲法がこれである。

空前絶後（クウゼンゼツゴ）以前に一度もなく、今後も起こらないだらうと思われる珍しいことを言う。

石井方式 漢字の覚え方

群雄割拠（グンユウカッキョ）各地を地盤とした英雄たちが、互いに勢力をふるつて対立

すること。戦国時代の様相。

君子自重（クンシジヂョウ）

表面は『君子よ、自重を望む』といふ意味のことばであるが、実は『この所小便無用』といふ意味の中国での用法である。小便無用でも、『小便しなくて結構です』という表現で、『小便するな』という高圧的な言い方よりうれしくなるが、『君子よ』と呼びかけられると、もつとうれしくなって、つい自重したくなると言つるものである。



牽強付会（ケンキョウフカイ）道理に合わないものを、自分の都合のよいように、むりに

いじつけること。

- 51 -

喧嘩賣鬻（ケンケンゴウゴウ）発言が多くてやかましい様を言う。 カンカンガクガク 侃々諤々と混用する

ことがあるので注意。

乾坤一擲（ケンコンイッテキ）運命をかけてのるかそるかの大勝負をすること。

捲土重来（ケンドチヨウライ）前に敗れた者が勢いを盛り返し、重ねて攻めて来ること。

絢爛豪華（ケンランゴウカ）目がくらむほどきらびやかに美しく、ぜいたくではなやかな

こと。

巧言令色（コウゲンレインショク）ことばをうまく飾つて言い、顔色をつくろつてあいそを

見せること。孔子は、こういう態度の者には誠実さがない（巧言令色

少ないかな（仁）と言つた。

荒唐無稽（コウトウムケイ）言つことにとりとめがなく、考えによりどころがないこと。

でたらめ。

好評噴噴[×]（コウヒヨウサクサク）評判が良くて口々に言いはやされること。

甲論乙駁[×]（コウロンオツバク）甲が何か論すると、乙がそれに反論するといつぶつに、議論が百出してまとまらないこと。

吳越同舟（ゴエツドウシュウ）吳と越とは互いによく争った国の名。仲の悪い者どうしが

同席するときなどに言つ。

虎視眈眈[×]（コシタソタソ）虎が獲物をねらつて様子をうかがつてゐること。広くチャンスをねらう場合に用いられる。

後生大事（コシヨウダイジ）のちの世の安樂を願つて、この世を一心に努力することだが、転じて、物をひどく大事にすることを言つ。

例 後生大事に持つて

いる

木端微塵^{△△×}（ヒコハミジン）木端は木の削りくず。細かく粉々に砕けることを言つ。

金剛不壞（コンゴウフエ）非常に堅固でけつして、われないこと。

言語道断（ゴンゴドウダン）もつてのほかのこと。もと仏教で、窮極の真理がことばで言ひ表わせないことを言つたことば。

才氣煥發[×]（サイキカンパツ）頭の働きが活潑で盛んなこと。頭が鋭い。

才色兼備（サイショクケンビ）「婦人の」すぐれた才知と容貌と兼ね備わつてゐること。自画自賛（ジガジサン）自分で書いた絵に自分で賛を書くことだが、自分で自分をほめる

ことに用いる。手前味噌[〃]。

自業自得（ジゴウジトク）自分でした悪事の報いを自分の身に受けること。

獅子奮迅[×]（シシフンジン）獅子が荒れ狂つたようにすごい勢いで奮闘すること。

自縄自縛（ジジョウジハク）自分の作った縄で自分をしばるよつに、自分の言行で自分の

動きが取れなくなることを言つう。

櫛風沐雨（シップウモクウ）風で櫛けずり、雨で髪を洗うという意味で、雨風にさらされて苦勞し、奔走すること。沐は髪を洗うこと。からだを洗うのが浴。

揣摩臆測（シマオクソク）当て推量に事情をおしはかること。

杓子定規（シャクシジョウギ）何でも一つの規律や基準で律しようとする融通のきかないやり方や態度を言つ。

周章狼狽（シユウショウロウバイ）あわてうろたえ騒ぐこと。狼も狽も“おおかみ”。狼は前足長く、狽は短いのでいつしょに行動し、両者が離れると倒れるのであわてるという話による。

秋霜烈日（シユウソウレツジツ）秋の冷たい霜と夏の烈しい日光ということで、権威や刑罰などが非常にきびしいことのたとえに用いられる。^{はげ}“秋霜”だけでは“白髮”にたとえられることがある。

首鼠両端（シユソリヨウタン）穴から首を出して左右をうかがう鼠のよつに、迷つて形勢をうかがうことを言つ。日より見。

常住坐臥（ジョウジュウザガ）ふだんの生活。また、ふだん。常住不断といふことばもある。

正真正銘（ショウシンショウメイ）まさにほんもの、という意味。

精進潔齋（ショウジンケツサイ）飲食を慎しみ、身体を清め、一心に修行すること。行ないを慎しむことや、仕事に精魂を打ち込むことに用いられる。

情状酌量（ジョウジヨウシャクリョウ）裁判官が、犯罪に至った事情のあわれむべき点をくんで、刑を軽くしてやること。

枝葉末節（ショウマツセツ）主要でない部分を言つ。取るに足らぬ事がら。

石井方式 漢字の覚え方

諸行無常（ショギョウムジョウ）諸行は宇宙の万物のこと。万物は常に流轉し、変化消滅

が絶えないと、いう仏教の根本思想を表わしたことば。

支離滅裂（シリメツレツ）統一がなく、ばらばらに乱れている状態。

人権蹂躪（ジンケンジュウリン）蹂躪は踏みにじること。基本的人権を犯すこと。常用漢字にないため、今は「人権侵害」が使われる。

字にないため、今は「人権侵害」が使われる。

信賞必罰（シンショウヒツバツ）賞罰を厳格にすること。

針小棒大（シンショウボウダイ）針ほど小さいことを棒ほどに大きく言うという意味で、物事を大げさに言うこと。

△
新陳代謝（シンチンタイシャ）陳は古いこと。生物体が生存に必要な物質を取り入れ、用済みとなつた古い物質を体外に出す作用。

人面獸心（ジンメンジュウシン）人間の顔をしていても心は獸と同じだということで、恩や恥を知らぬ人間を言う。

森羅万象（シンラバンショウ）森羅は森の木の限りなくつらなること。万象の修飾語。象は形ある物の意。宇宙に存在するいっさいの万物という意味のことば。

醉生夢死（スイセイムシ）生まれて死ぬまでの間を、酒に酔い、夢見（ごむ）いぢです（ごす）という意味。ただ生きているというだけで価値のない生き方を言う。

水天彷彿（スイテンホウフツ）彷彿はよく似ていて見分けがつかぬこと。海の遠い沖と空とが続いて見分けがつかぬ様を言う。

寸善尺魔（スンゼンシャクマ）世の中には良い事が少なくて、悪い事が多いことを言う。

寸は尺の十分の一の長さ。一寸は約三センチメートル。

生殺与奪（セイサツヨダツ）生かすも殺すも与えるも奪うも自分の思いのままであること。

〔例〕 生殺与奪の権をにぎる

石井方式 漢字の覚え方

青天白日（セイテンハクジツ）心にやましいところが全くないこと。また、無罪だと明らかにないことを言う。

青天白日（セイテンハクジツ）心にやましいところが全くないこと。また、無罪だと明らかにないことを言う。

かになること。

例 青天白日の身となる

清廉潔白（セイレンケツパク）廉は潔と同意で、いさぎよいこと。心が清らかで私欲がないことを言つ。

いふことを言つ。

是非非（ゼゼヒヒ）是を是とし、非を非とする態度。公平無私な態度を言つ。

切磋琢磨（セツサタクマ）切る、磋る、琢つ、磨くは宝玉を作り上げる手順。学問・道德に励んで自己を完成することにたとえる。また仲間どうし互いに励まし合つて向上することにも用いる。

切歎扼腕（セツシヤクワソ）歎きしりをし、腕を握りしめて、ひどくやしがつたり怒つたりすること。

絶体絶命（ゼツタイゼツメイ）命はからだに宿るもの、絶体も絶命も同じ意。必死の状態に追いつめられること。絶対絶命ではないことに注意。

淺学菲才（センガクヒサイ）菲は薄の意。学問が浅く、才能が薄いこと。自己をへり下つて詮つときに用いる。

千載一遇（センザイイチグウ）載は歳の意。千年に一度しか出会えないこと。

例 千載一遇の好機

戦々兢兢（センセンキョウキョウ）戦は戦慄で、ふるえおののくこと。兢はつつしむいと。恐れつつしむあまり、ふるえおののくこと。今は“戦々恐々”と書くが、戦争が恐ろしくて、ふるえるのではない。

前代未聞（ゼンダイミモン）今までに聞いたことがないの意。たいへんなどき、やあきれた事に使う。

千篇一律（センペニチリツ）千篇の詩が皆同じ調子だという意で、どれもこれも変わりばえのしないことを言つ。

造次顛沛（ゾウジテンパイ）造次はとつさの間、顛沛はつまずいて倒れる間。きわめて短時間の意。

大願成就（タイガンジョウジュ）大きな願いが成し遂げられる事。仏教の大願は衆生を救うことである。大は呉音。

大器晩成（タイキバンセイ）晩は早の反対（遅は速の反対）。大人物は早熟でなくて晩成するという意味。漢音は大。

泰山北斗（タイザンホクト）泰山は中国の名山、北斗は北斗星。人に指針を与え、人に仰がれる者のたとえ。略して“泰斗”とも言う。

多岐亡羊（タキボウヨウ）岐は岐路（分かれ道）。道が多く分かれてい、逃げた羊をどう追うべきか迷つてけつきよく失う、の意で、学問の道があまりにも多方面に分かれてい、真理を見失いやすいことを言つたもの。

单刀直入（タントウチョクニュウ）单身刀を持って敵陣に入り、直接大将に切りかかること。前置きなく、直接要件を切り出す場合に用いる。【例】单刀直入にお伺いしますが

魑魅魍魎（チミモウリョウ）種々の妖怪変化（おばけ）を言つ。（基礎編末の項参照）

朝三暮四（チヨウサンボシ）猿に与える果実を朝三、暮れに四つにしたら怒つたので、朝四、暮れに三つにしたら喜んだという故事。目前の利にとらわれ、大局に気がつかないこと。また、人をうまくまかす話術を言つ。

張三李四（チヨウサンリシ）張氏の三男、李氏の四男の意。張・李の姓は中国に多い。身分も低く、有名でもない、至極ありふれた人の意に用いる。

昼夜兼行（チエウヤケンコウ）昼も夜も休まずに続けて行なうこと。

直情徑行（チヨクジョウケイコウ）徑は直行が本義（基礎編全の項参照）。直情は偽り

や飾りのないありのままの感情。心にこうと思ったことは周囲の思わずを考えずにまっすぐに言つたり行なつたりすること。

沈思默考（チンシモツコウ）黙つて深く、思考すること。

津津浦浦（つづらうらうらうらう）津という津、浦という浦すべてという意で、國中至る所という意味に使う。

適者生存（テキシャセイゾン）生物進化論の用語で、生存競争の結果、外界の状態に最も適した者が生き残つて繁栄するということ。

徹頭徹尾（テツトウテツビ）徹は貫徹（貫き徹す）の徹。頭から尾まで貫徹する意で、

最初から最後までおしどおすこと。

天衣無縫（テニイムホウ）天人の着物には縫い目のような人工のあとがないの意で、詩歌などが、技巧をこらしたあとがなく、いかにも自然で、しかもすぐれ

ているのを言つ。また、天真爛漫の意にも使つ。

天真爛漫（テンシンランマン）爛漫は花の美しく咲き乱れた様を形容したことば。天真は生まれた時の汚れなき純真さを言つ。無邪氣で明朗な様。

■ 天地無用（テンチムヨウ） ■

上下を逆にしてはいけない荷物の包装によく書かれる。

天は天、地は地にしておいてほしいといふ意味のことばである。無用はそうする必要がないといふ意味のことばで、逆さまにするなど言わず、無用と言つたところに昔の人の心使いの美しさを感じる。



天網恢恢（テンモウカイカイ）恢は心の大きく広いこと。老子のことばで、このあとに「疎にして漏らさず」がある。天の張りめぐらした網は目が大きくて疎いが、悪人を必ず取りおさえるの意。天道は無為だが厳正であり、悪事には必ず悪報があること。

同工異曲（ドウコウイキョク）細工の工法は同じだが趣が違うこと。また、反対に、違っているようで実はだいたい同じようだという場合にも用いる。

内憂外患（ナイユウガイカン）国内の政争、外国からの侵略の心配。

難攻不落（ナンコウフラク）攻撃しがたく、容易に陥落しないこと。なかなか思いどおりにいかない場合に使われる。

南船北馬（ナンセンホクバ）中国では南部では川が多いので船が、北部では山が多いので馬が第一の交通機関であった。絶えず方方を旅行すること。

二束三文（ニソクサンモン）数は多くても値段は安いこと。

二律背反（ニリツハイハン）同一の命題から互いに矛盾する二つの命題が導き出されることが、甲が真なら乙は偽で、乙が真なら甲は偽だという関係。

博引旁証（ハクインボウショウ）事を論ずるのに博く例を引き、ひろく あまねく証拠を示すこと。

薄志弱行（ハクシジヤツコウ）意志薄弱で決断実行する力の弱いこと。

博覽強記（ハクランキョウキ）ひろく 博く書物を読んで、よく記憶していること。

薄利多売（ハクリタバイ）利益を少なくすることによって多く売り、全体として多くの利益を得るやり方を言う。

馬耳東風（バジトウフウ）他人の意見や批評を全く気にかけないで聞き流すことを言つ。

李白の詩に見える句。

石井方式 漢字の覚え方

破邪顯正（ハジヤケンショウ）仏教のことば。邪道を打ち破り、正しい道理を世に顯し

馬耳東風（バジトウフウ）他人の意見や批評を全く気にかけないで聞き流すことを言つ。

あらわし

広めること。

抜本塞源（バツ。ポンソクゲン）王陽明のことば。弊害の大もとになる原因を抜き取らなければ、眞の解決にならないことを言う。

波瀾万丈（ハランバンジョウ）瀾は大波。丈は十尺（約三メートル）。ものすごい大波の意で、事件が激しい変化に富むことを言う。

盤根錯節（バンコンサクセツ）わだかまつた根、入り組んだ節の意で、ごたごたとしていて解决困難なことを言う。

美辞麗句（ビジレイク）美麗な辞句。りっぱらしく見える文句のこと。

百鬼夜行（ヒヤツキヤコウ）いろいろな姿をした鬼どもが夜中に行列して歩くことで、悪

人のはびこる様を言う。

風声鶴唳（フウセイカクレイ）風の音や鶴の鳴き声（唳）にも、敵の襲来ではないかと恐

れるように、おじげづいでいることに用いる。

不俱戴天（フグタイテン）俱に天を戴いただかない、つまり、ともに生きてはいないと思
うほど恨むことを言う。

不惜生命（フシャクシンミョウ）仏教のことばで、仏のために身命をささげて惜しまない
ことを言う。

不即不離（フソクフリ）即かず離れずということ。

不撓不屈（フトウフクツ）撓は曲げたわめること。困難に出会つてもへこたれないことを
言つ。

不立文字（フリュウモンジ）悟りの道は、文字や言語によつては伝えられるものではない
といふ禅宗の立場を示す標語。

武陵桃源（ブリョウウトウゲン）世間とかけ離れた幸福な別天地。陶淵明の桃花源記によ
トウエンメイ

る架空の理想郷。

付和雷同（フワライドウ）雷同は雷鳴に応じて起つる空氣の振動を言つ。考えもなく他の説に同調することを言つ。

粉骨碎身（フンコツサイツン）骨を粉にし、身を碎くの意で、力の限りを尽くしてがんばるること。

焚書坑儒（フンショコウジュ）秦の始皇帝が書物を集めて焼き、儒者を穴うめにして殺したことで、文化的な弾圧を言つ。

片言隻語（へンゲンセキゴ）隻は一つ、片は半分。ことばの切れはし、ちょっとしたことばの意味。

暴虎馮河（ボウコヒョウガ）虎を手打ちにし、黄河を徒步で渡るの意で、無謀な危険を犯す血氣の勇を言つ。

傍若無人（ボウジャクプジン）傍かたわらに人無ひときが若わかしの意で人前をはばからずかつてにふるまつこと。

名詮自性（ミヨウセンジショウ）加藤清正が清く正しい人間だったように、名がそのもの自体の本性を表わすことを言つ。詮は言を全くすの意で、ことばをじゅうぶんに尽くして明らかにすること。

明鏡止水（メイキョウシスイ）曇りのない鏡、静かに澄んだ水の意で、邪念なく落ち着いた心境を言つ。

明窓淨机（メイソウジョウキ）明るい窓と清らかな机の意で、清らかな書齋を言つ。

明眸皓齒（メイボウコウシ）ひとみが澄んでおり歯が白いこと。美人の形容。

門外不出（モンガイフシユツ）秘藏して、家の外には出さないこと。

石井方式 漢字の覚え方

唯我独尊（ユイガドクソン）唯ただひと我われ独ひとり尊そんしの意で、自分がすぐれていると自負する

る」ことを「言つ。

優柔不斷（ユウジュウフダン）優はやさしい、柔はおとなしい。ぐずで決断力に乏しいことを「言つ。

とを「言つ。

融通無礙（ユウズウムゲ）礙は通行を妨げる石。融は通と同義。じやまになるものがなくてうまく進行すること。

△ 有職故実（ユウソクコジツ）朝廷や武家の礼式・典故。

羊頭狗肉（ヨウトウクニク）看板に羊の頭を出しておきながら、実際には犬（狗）の肉を売るの意で、見せかけだけで実質の伴わないことにたとえて「言つ。

△ 六韜三略（リクトウサンリヤク）六韜も三略も中国の兵法書。兵法の極意を「言つ」。虎の

卷は編の名前。

△ 竜頭蛇尾（リュウトウウダビ）頭は竜だが尾は蛇の意で、頭でつかち尻つぼみの意。

△ 臨機応変（リンキオウヘン）機に臨み、変に応ずるの意で、その場の変化に応じて適当な処置をすべきすることを「言つ。

△ 老若男女（ロウニヤクナンニヨ）年寄りも若い者も男も女も、すべての意。

△ 六根清淨（ロツコンショウジョウ）六根は眼鼻耳舌身意、感覚や意識を生ずる六つの根元の意。六根から生ずる欲望を断ち切り清らかになること。靈山に登るときには唱える文句。

△ 爐邊談話（ロヘンダンワ）いろいろたでくつろいでする、よもやま話のこと。

論功行賞（ロンコウコウショウ）功績の有無大小を論じ、それに応じた賞を与えること。

読み方によつて意味の異なる熟語

悪性（アクショウ）心や行ないの悪いこと。

（アクセイ）たちの悪いこと。

【例】悪性な女

一定（イチジョウ）必定。必ずそうなると決まつてゐること。

（イチジョウ）ある決まつた状態。

【例】一定の分量

一途（イチズ）ひたむき。

【例】一途な性質

（イチト）①一つの道。同じ方針。

【例】政令一途に出づ ②ただそればかり。

化の一途をたどる

一品（イッピン）①一つの品。

【例】

一品料理 ②最上の品

【例】

天下一品

（イッポン）親王の位階。

【例】

一品親王

上手（うわて）①上のほう。②人よりすぐれていること。

【例】

一枚上手

（かみて）①上座のほう。②舞台の、向かつて右のほう。

尾鰭（おひれ）尾とひれ。

【例】尾鰭をつける（話を大きくすること）

（おびれ）魚の鰭のうち後尾にある物。

化生（カセイ）生物の器官の形状や機能が、ふつうと大いに変わること。

（ケショウ）母親から生まれるのでなく、自然に生ずること。また“ばけもの”の意味にも使う。

堪能（カンノウ）物事によく熟達していること。じよづ。

（タンノウ）①カンノウと同じ。

【例】書に堪能だ ②満足。

【例】じゅうぶん堪能した

氣色（キショク）心に思つてゐることが顔に現われた様子。顔色。また氣分。

（ケシキ）ある状態。様子。また、兆候。

形相（ギョウソウ）顔かたち。様子。

（ケイソウ）①形、有様。②形式。

經典（キヨウテン）宗教の教理を説いた本。お經の本。

（ケイテン）①聖賢の著述した書物。四書五經など。②經典。

切羽（きりは）鉱石・石炭などの採掘場。

（セツぱ）刀のつばの両面に添えてある薄い小さい金具。

苦汁（クジュウ）にがしる 苦い汁、ひどい目にあうことを「苦汁を飲まされる」という。

（にがり）食塩が温氣を吸つて溶けるときにできる苦い液体。豆腐製造に使う。

血脈（ケチミヤク）師の坊から弟子に授ける法統。

（ケツミヤク）①血管。②血統（血すじ）。

後生（コウセイ）あとから生まれる者。後輩。孔子は「後生おそるべし」と言った。

（ゴショウ）のちの世に生まれかわること。また、その世。

強力（キョウリョク）強い力。力が強いこと。

（ゴウリキ）①強い力。②登山者の荷物を背負つて案内する人。

乞食（コジキ）× 食物や金錢を人に恵んでもらつて生活する人。物もらい。

（コツジキ）憎が人家の門に立ち、鉢はちをささげ、食い歩くこと。

在郷（ザイキョウ）郷里にいること。

（ザイゴウ）①郷里にいること。②いなか。単に「在」とも言う。

再建（サイケン）もとのように建て直すこと。

（サイコン）神社・仏閣などの建物を建て直すこと。

最中（サイチュウ）まっさかり。

（もなか）①まん中、まつ盛り。②中にあんを入れた和菓子。

座頭（ザガシラ） 一座の長。芝居などの首席役者。

（ザトウ） 盲人の琵琶法師の位の名。単に“盲人”の意味にも用いる。

地下（ジゲ） 清涼殿に昇殿することを許されない宮人、またその家格。また、宮人以外の人。

人。

（チカ） 地面の下。

施行（シコウ） 実際に行なうこと。“ゼコウ”とも読むが、これでは上が吳音で、下が漢音でよくない。

（セギョウ） 人々をあわれんで、物または教えを施すこと。

洒落（シャラク） 心からまいがさっぱりしていて、物事に深く執着しないこと。

（シャレ） 人を笑わせる、気のきいた文句、また、身なりを気のきいたふうに装うこと。

- 64 -

重宝（ジュウホウ） 珍重すべき宝物。
チンチヨウ

（チヨウホウ） 便つて便利なこと。

祝詞（シュクシ） お祝いのことば。

（のりと） 神に祈るとき、神官の読む古体の文章。

丈夫（ジョウフ） 身のだけ一丈もある男子という意味のことばで、男子の美称。
（ジョウブ） ①男子の美称。②健康なこと。③堅固で、これにいくこと。

精霊（ショウリョウ） 仏教語で、死者の靈魂のこと。

（セイレイ） 山川草木など、いろいろな物に宿ると考えられる靈魂。

人気（ジンキ） その地方一帯の氣風。

（ニンキ） 世間の評判。人々からの受け。

身上（シンショウ） 身代、また財産の意。

(シンジョウ) ①身の上。一身に関する事がら。②取りえ 値打ち。
が身上だ

人体(ジンタイ) 人のからだ。

(ニンティ) 人の姿 また、人がら。

心中(シンチエウ) 心の中。

(シンジュウ) いつしょに死ぬこと。

真面目(シンメンボク) 真の姿。真価の意に用いられる。

(まじめ) 誠実。本気。真心こめて物事をすること。

千万(センバン) ①はなはだしい意。 例 卑怯千万 ②いろいろさまざま。

例 千万心を

碎く

(センマン) ①万の千倍。②数の多い意。

造作(ゾウサ) 手のかかる意。めんどう。 例 造作をかける・造作なくできた

(ゾウサク) ①家を建てること。②建物の内部の取り付け物、置・建具・たななど。

③顔の作り。顔つき。

大家(タイカ) ①その道の特にすぐれた人。②大きな家。

(タイケ) 富んだ家、または身分の高い家。

大夫(タイフ) ①五位を授けられた者。②大名の家老。③士の上、卿の下。
(ダイブ) 令の制度で職の長官。

(タユウ) 格式のりっぱな芸人。
シキ

知行(チヨウ) 封建時代、武士に支給された土地。また、俸禄。
ホウロク

(チコウ) 知識と行為と。
例 王陽明 の知行合一

抽出(チュウシュウ) 抽は引き抜くこと。物や要素を抜き出す意に用いる。

(ひきだし) 机のひきだしなど。

築地 (ついいじ) 柱を立て、板を心にして泥で塗り固め、瓦で屋根をふいた壠。^{（へイ）}

(つきじ) 埋め立てた土地。

追従 (ツイジュウ) 人の言つこと、することにそのまま従うこと。

(ツイショウ) へつらうこと。おべつか。

【例】追従笑い

敵勢 (テキセイ) 敵の勢い。

(テキゼイ) 敵の軍勢。

難行 (ナンギョウ) 困難な修行。

(ナンコウ) 進行が困難の意で、物事がうまくはからないこと。

撥音 (バチおと) ^{バチ} _{ハンバツ} 撥は反撥の撥で、はねる。三味線のばち。ばちが弦をはじいて楽器に

当たる音。

(ハツオン) はねる音の意で、"ん"と書かれる音。天・健・線・元など。

初日 (はつひ) 元日の朝の太陽。

(ショニチ) 何日かにわたる行事の最初の日。

万歳 (バンザイ) 万年、長生きの意。祝福の意を表わすため大勢で唱える。^{（とな）}

(マンザイ) ①新年に祝いのことばを歌いながら舞う者。②かけあいまんざい。(今は漫才と書く)

評定 (ヒョウジョウ) 評議して決定すること。

(ヒョウティ) 評価を決定すること。

分別 (フンベツ) 判断の意で、世事に関する常識的な考慮判断の能力を言つ。

(フンベツ) 種類により、区別・区分すること。

末期 (マツキ) 終わりの時期。

(マツゴ) 一生の最後。臨終。

無人 (ムジン) 人が住んでいないこと。

(ムニン) ①ムジン。②人手がないこと。

利益 (リエキ) 得。もうけ。ためになること。

(リヤク) ①ためになること。②仮の力によって与えられる恵み。

